

目次

本書をお読みになる前に	7
本書の表記	7
商標および著作権について	9
第 1 章 各部名称	
1 各部の名称と働き	12
ワークステーション本体前面	12
ワークステーション本体背面	15
ワークステーション本体内部	18
メインボード	19
第 2 章 ハードウェア	
1 疲れにくい使い方	22
ディスプレイ	23
使用時間	23
入力機器	23
机と椅子	23
作業スペース	23
2 マウスについて	24
マウスの使い方	24
光学式マウスについて	26
3 キーボードについて	27
4 CD / DVD について	30
取り扱い上の注意	30
使用できるディスク	32
DVD-RAM への書き込み／書き換えについて	36
ディスクをセットする／取り出す	38
5 フロッピーディスクについて	40
取り扱い上の注意	40
フロッピーディスクをセットする／取り出す	40
6 ハードディスクについて	43
注意事項	43
7 CPU について	44
8 ハードウェアのお手入れ	45
ワークステーション本体のお手入れ	45
マウスのお手入れ	46
キーボードのお手入れ	47
フロッピーディスクドライブのお手入れ	48

9 筐体のセキュリティ	49
ワークステーション本体前面の施錠方法（カスタムメイドオプション）	49
ワークステーション本体背面の施錠方法	50

第3章 増設

1 周辺機器を取り付ける前に	52
取り扱い上の注意	52
2 本体カバーを取り外す	54
本体カバーの取り外し方	54
3 メモリを取り付ける	56
メモリの取り付け場所	57
取り付けられるメモリ	57
メモリを取り付ける	58
4 拡張カードを取り付ける	63
拡張カードの取り付け場所	64
PCI 規格の拡張カードを取り付ける	65
PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付ける	67

第4章 機能

1 ディスプレイ関連	72
解像度と色数について	72
マルチディスプレイ機能	76
マルチディスプレイ機能を設定する	78
2 音量的設定	85
画面上の音量つまみで設定する	85
再生時／録音時の音量設定について	85
3 通信	88
LAN について	88
4 ドライブ関連	90
ドライブ構成	90
DMA の設定	90
5 省電力	92
スタンバイと休止状態	92
注意事項	92
省電力の設定	95
スタンバイまたは休止状態にする	96
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	97
ACPI のスタンバイモードを設定する	98
6 その他	99
Power MANagement for Windows	99

第 5 章 セキュリティ

1 セキュリティについて	102
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	104
コンピュータウイルス対策	104
Windows やソフトウェアのアップデート	106
セキュリティセンター	107
ファイアウォール	108
通信データの暗号化	108
3 不正使用からのセキュリティ	109
Windows のパスワード	109
管理者権限とユーザーアカウント	109
アクセス権と暗号化	109
BIOS のパスワード	110
セキュリティチップ	110
スマートカードリーダー/ライター	110
Portshutter	111
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	111
4 ワークステーションの盗難防止	112
5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ	113
ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に 関するご注意	113
ハードディスクのデータ消去サービスについて	114

第 6 章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	116
各ソフトウェアの紹介	117
アンインストール方法	126
2 ドライバ	127

第 7 章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	130
2 BIOS セットアップの操作のしかた	131
BIOS セットアップを起動する	131
各キーの役割	132
設定値を変更する	132
BIOS セットアップを終了する	133
Boot Menu を使用する	133
3 メニュー詳細	134
Main メニュー	134
Advanced メニュー	136
Security メニュー	141
Power メニュー	146

Boot メニュー	148
Info メニュー	150
Exit メニュー	151
4 BIOS のパスワード機能を使う	152
パスワードの種類	152
パスワードを忘れると	152
パスワードを設定する	154
パスワードを設定した後は	155
パスワードを変更／削除する	155
5 セキュリティ機能を使うには	156
セキュリティチップ	156
スマートカード	157
6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧	161
エラーメッセージが記録されたときは	161
エラーメッセージ一覧	161

第 8 章 技術情報

1 仕様一覧	166
本体仕様	166
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	168
LAN 機能	168
表示機能	169
2 コネクタ仕様	170

第 9 章 トラブルシューティング

1 トラブルに備えて	178
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	178
Windows のセットアップ後の操作	178
修正プログラムの適用について	179
データのバックアップ	179
ドキュメントの確認	179
2 トラブル発生時の基本操作	180
本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する	180
以前の状態に戻す	180
Safe モードで起動する	181
ハードウェアの競合を確認する	181
バックアップを行う	182
メッセージなどが表示されたらメモしておく	182
診断／修正プログラムを使用する	182
リカバリ	184
3 起動・終了時のトラブル	185
4 Windows ・ソフトウェア関連のトラブル	187

5	ハードウェア関連のトラブル	189
	ハードウェア関連のトラブル一覧	189
	BIOS	190
	メモリ	191
	LAN	192
	ハードディスク	193
	デバイス	194
	CD / DVD	194
	フロッピーディスク	196
	SCSI カード	196
	ディスプレイ	197
	サウンド	198
	キーボード	199
	マウス	199
	USB	200
	IEEE1394a	201
	本体カバーキー	201
	プリンタ	201
	その他	202
6	それでも解決できないときは	203
	お問い合わせ先	203
索引	205


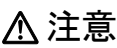
Memo

本書をお読みになる前に




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

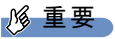

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
          ↑ ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、**【Space】**キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD/DVD ドライブなどのドライブ名を、**【CD/DVD ドライブ】**で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：**【CD/DVD ドライブ】**：¥setup.exe

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS 設定の表記

本文中の BIOS 設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「Power」メニューの「ACPI Sleep Mode」の項目を「S1」に設定します。

↓

「Power」 - 「ACPI Sleep Mode」 : S1

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
CELSIUS J340	J340	本ワークステーション ワークステーション本体	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Norton AntiVirus™ 2006	Norton AntiVirus		
Roxio DigitalMedia SE	Roxio DigitalMedia		
Adobe® Reader™ 7.0	Adobe Reader		
ATI RADEON® X300 SE PCI-Express 128MB DDR DVI-I ATX	RADEON X300 SE		
NVIDIA® Quadro® FX 550	Quadro FX 550		
ATI FireGL™ V5000 PCI-Express 128MB DDR DVI-I/DVI-I ATX	FireGL V5000		
NVIDIA® Quadro® FX 1500	Quadro FX 1500		

■ お問い合わせ先 / URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2006 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『取扱説明書』）。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、RADEON、FireGL は、ATI Technologies Inc. の登録商標または商標です。

NVIDIA、NVIDIA Quadro は、NVIDIA Corporation の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第 1 章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	12
------------------	----

1 各部の名称と働き

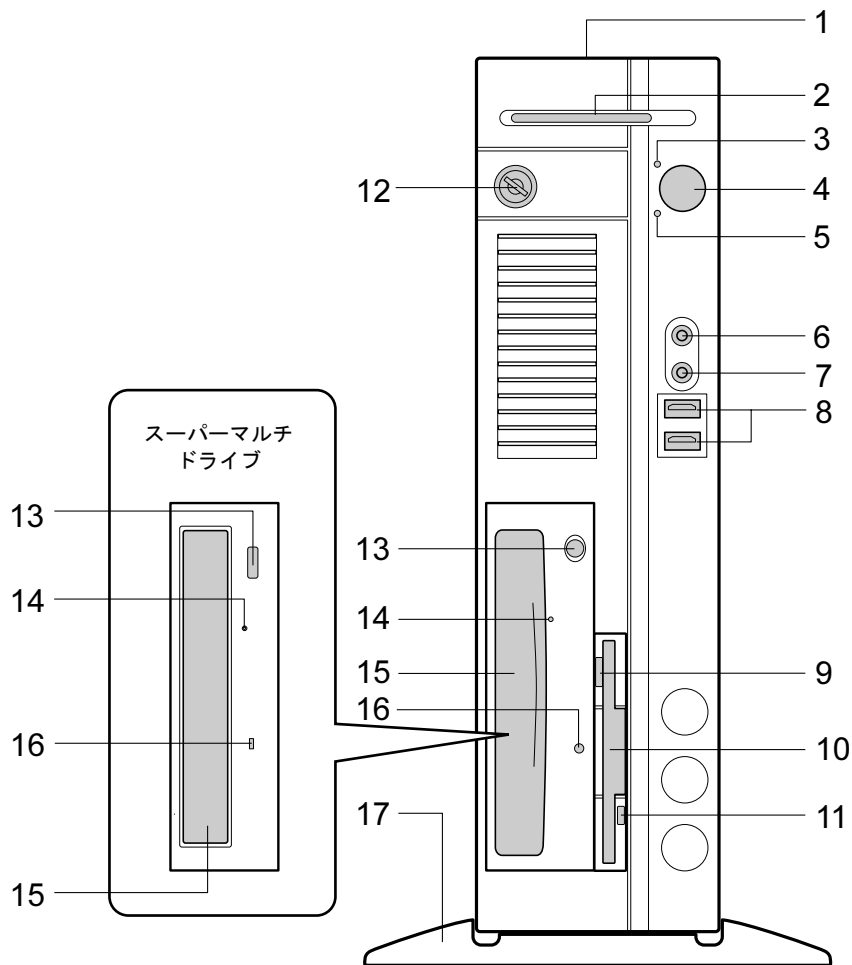
ここでは、ワークステーション本体、メインボードの各部の名称と働きを説明します。

POINT

- ▶ これ以降の記述については、縦置きを前提としています。横置きにする場合は、読み替えてください。

ワークステーション本体前面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 通風孔

ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部があります。物を載せるなどしてふさがないようにご注意ください。

2 スマートカードベイ (🗂)

カスタムメイドで選択したスマートカードリーダー/ライターが取り付けられています。

3 電源ランプ (🔆)

ワークステーション本体の電源の状態を表しています。

緑色に点灯しているときは、電源が入っています。

オレンジ色に点灯しているときは、ACPI のスタンバイモード状態 (省電力状態) です。

ワークステーション本体の電源が入っていないときは、消灯しています。

4 電源ボタン (🔌)

次の場合に押します。

- ・ワークステーション本体の電源を入れるとき

- ・スタンバイ状態 (省電力状態) にするとき

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの設定を変更してください。

「機能」 - 「省電力」 (→ P.92)

- ・スタンバイ状態から復帰 (レジューム) するとき

5 ディスクアクセスランプ (📀)

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりしているときに点滅します。また、CD-ROM ドライブによっては、CD にアクセスしているときに点滅する場合があります。

6 マイク端子 (🎤)

市販のコンデンサマイクを接続することができます。

7 ヘッドホンアウト端子 (🎧)

市販のヘッドホンなどのオーディオ機器を接続することができます。

スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

ヘッドホンアウト端子にヘッドホンを接続している間は、ワークステーション本体背面のラインアウト端子はお使いになれません。

8 USB コネクタ (🔌)

USB 規格の周辺機器を接続することができます。USB2.0 に準拠しています。

9 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクアクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

10 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

「ハードウェア」 - 「フロッピーディスクについて」 (→ P.40)

11 フロッピーディスクアクセスランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。

12 鍵穴

カスタムメイドで本体カバーキー追加を選択している場合、添付の本体カバーキーで、本体カバーを施錠することができます。

「ハードウェア」 - 「筐体のセキュリティ」 (→ P.49)

重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

13 CD/DVD 取り出しボタン

CD-ROM や音楽 CD をセットするときや取り出すときに押します。ワークステーション本体の電源が入っているときにお使いになれます。

CD アクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

14 ディスク取り出し穴

CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレイが出ない場合に使用します。

電源を切断した後、クリップなどの細いワイヤをディスク取り出し穴に挿入するとトレイが出てきます。媒体を取り出した後、トレイを静かに元の位置に戻します。緊急時以外は使用しないでください。

15 CD-ROM ドライブ

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽 CD を再生したりします。

カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが取り付けられています。

- ・スーパーマルチドライブ

「ハードウェア」－「CD / DVD について」(→ P.30)

16 CD アクセスランプ

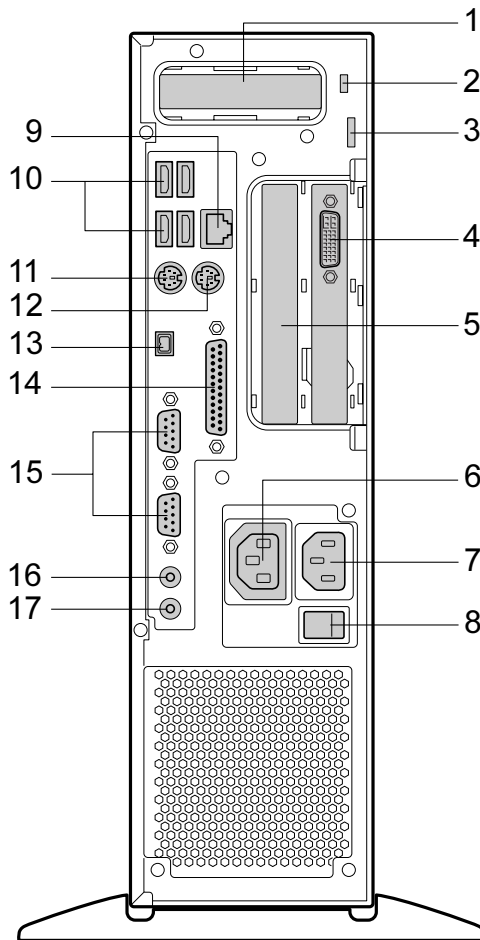
CD-ROM からデータを読み込んでいるときや音楽 CD を再生しているときに点滅します。

17 フット

本ワークステーションをお使いになるときに取り付ける台座です (→ 『取扱説明書』)。

ワークステーション本体背面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カード (Low Profile 対応) を取り付けることができます。
「増設」 - 「拡張カードを取り付ける」 (→ P.63)

2 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

3 セキュリティ施錠金具

市販の鍵を取り付けることができます。
「ハードウェア」 - 「筐体のセキュリティ」 (→ P.49)

4 DVI-I コネクタ (DVI)

ディスプレイを接続することができます。DVI-VGA 変換ケーブルまたはデジタルディスプレイのディスプレイケーブルが使用できます。
カスタムメイドの選択によっては、コネクタの種類が異なります。

5 PCI Express x1 スロット

PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付けることができます。

カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合は、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。

「増設」－「拡張カードを取り付ける」(→ P.63)

6 アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続することができます。

7 インレット

電源ケーブルを接続することができます。

8 メインスイッチ

ワークステーション本体の電源を完全に切る場合に「オフ」にします。「|」側が「オン」で「○」側が「オフ」です。

「オフ」にすると、電源ボタンを押しても、ワークステーション本体の電源は入りません。通常は「オン」のままお使いください。

ただし、長期間お使いにならない場合は、「オフ」にしてください(→『取扱説明書』)。

9 LAN コネクタ (RJ45)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続することができます。

1000Mbps でお使いになる場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルが必要です。

100Mbps でお使いになる場合、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、次のとおりです。

	上部 LED (Speed)	下部 LED (Link/Act)
1000Mbps で LINK を確立	オレンジ点灯	緑色点灯 ^注
100Mbps で LINK を確立	緑色点灯	緑色点灯 ^注
10Mbps で LINK を確立	消灯	緑色点灯 ^注

注 : データ転送中 : 緑色点滅

10 USB コネクタ (USB)

USB 規格の周辺機器を接続することができます。USB2.0 に準拠しています。

11 キーボードコネクタ (Keyboard)

PS/2 キーボードを接続することができます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.27)

12 マウスコネクタ (Mouse)

PS/2 マウスを接続することができます。

「ハードウェア」－「マウスについて」(→ P.24)

13 IEEE1394a 端子 (i1394)

IEEE1394a 規格の周辺機器を接続することができます。

14 パラレルコネクタ (Parallel)

プリンタやスキャナなどを接続することができます。

15 シリアルコネクタ (Serial)

RS-232C 規格に対応した機器を接続することができます。

16 ラインアウト端子 (Ⓔ)

サウンド出力用端子です。オーディオ機器の入力端子と接続することができます。
スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

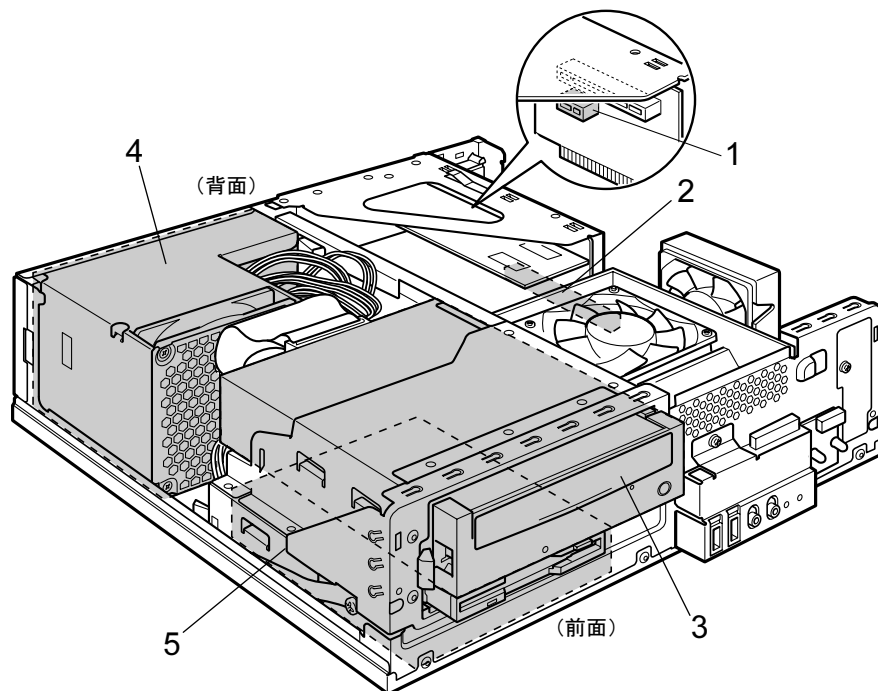
ワークステーション本体前面のヘッドホンアウト端子にオーディオ機器を接続した場合、本ラインアウト端子はお使いになれません。

17 ラインイン端子 (Ⓕ)

サウンド入力用端子です。オーディオ機器の出力端子と接続することができます。

ワークステーション本体内部

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 PCI Express x1 スロット

PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付けることができます。
「増設」－「拡張カードを取り付ける」(→ P.63)

2 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カード (Low Profile 対応) を取り付けることができます。
カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合は、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。
「増設」－「拡張カードを取り付ける」(→ P.63)

3 5 インチファイルベイ

CD-ROM ドライブが取り付けられています。
カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが取り付けられています。
・スーパーマルチドライブ

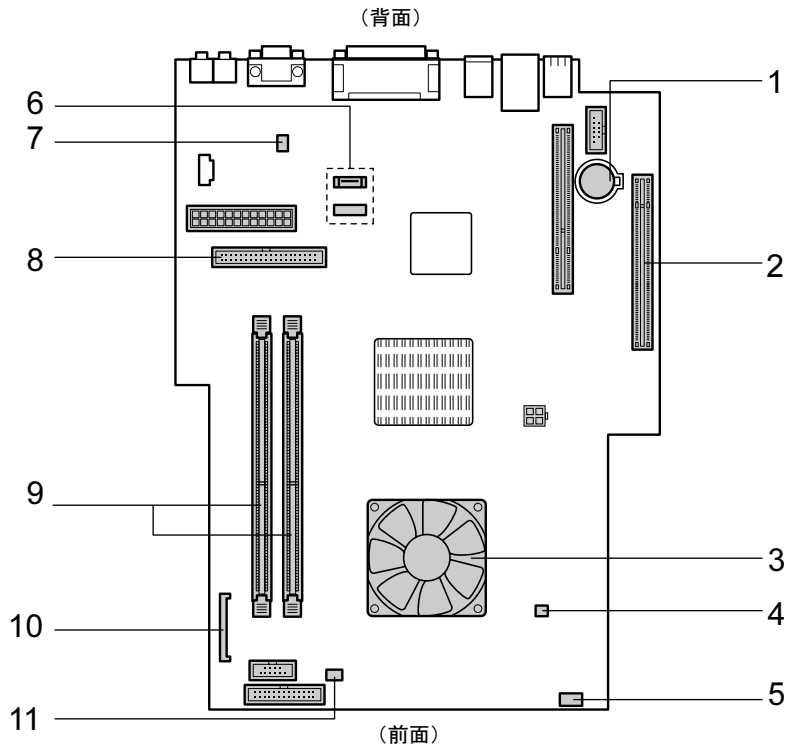
4 電源ユニット

5 3.5 インチファイルベイ

内蔵ハードディスクが取り付けられています。

メインボード

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 内蔵バッテリー

本ワークステーションの時計機能とBIOSセットアップで設定した設定値を保存するためのバッテリーです。標準の使用状態（1日約8時間）で約5年間お使いになれます。

2 PCI コネクタ

32bit/33MHz PCI カード（Low Profile 対応）を取り付けることができます。

3 CPU（ヒートシンクの下にあります）

4 温度センサー（System）

5 System FAN コネクタ

6 Serial ATA コネクタ

Serial ATA インターフェースのハードディスクを接続するケーブルが接続されています。Serial ATA コネクタ 1 に標準のハードディスク（Serial ATA HDD）が接続されているケーブルが接続されています。

7 温度センサー（Rear）

8 パラレル ATA コネクタ

CD-ROM ドライブが接続されているケーブルが接続されています。

9 DIMM スロット

メモリが取り付けられています。

図中右から、DIMM1、DIMM2 の順に並んでいます。

「増設」－「メモリを取り付ける」(→ P.56)

10 フロッピーコネクタ

フロッピーディスクドライブと接続されているケーブルが接続されています。

11 CPU FAN コネクタ

第2章

ハードウェア

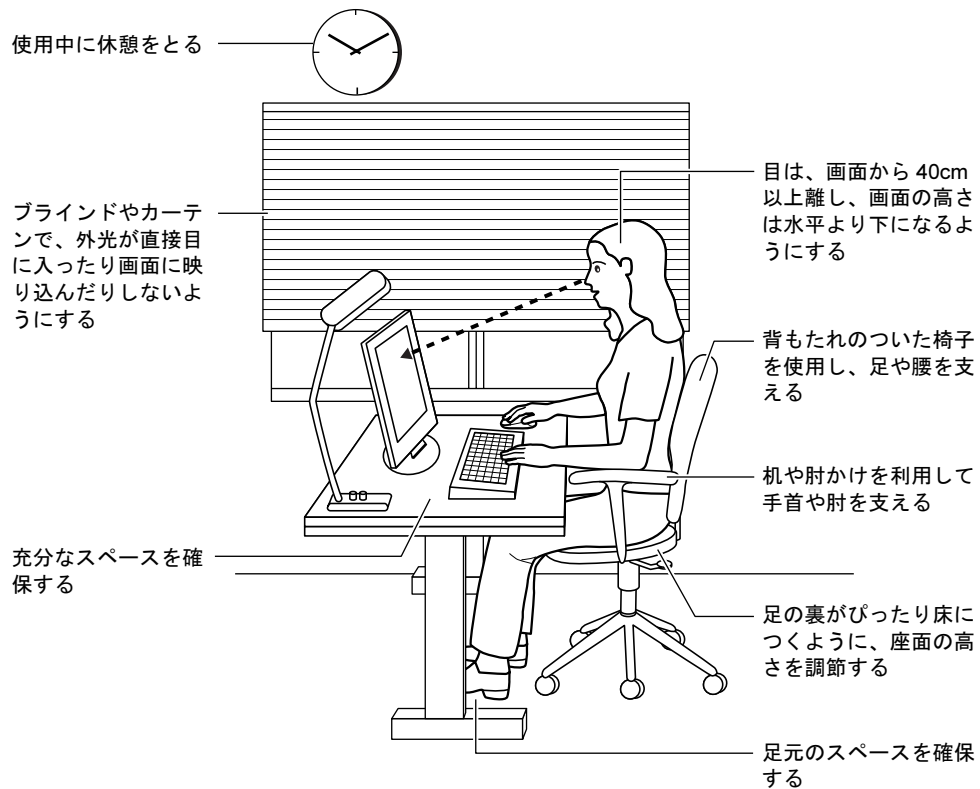
2

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 疲れにくい使い方	22
2 マウスについて	24
3 キーボードについて	27
4 CD / DVD について	30
5 フロッピーディスクについて	40
6 ハードディスクについて	43
7 CPU について	44
8 ハードウェアのお手入れ	45
9 筐体のセキュリティ	49

1 疲れにくい使い方

ワークステーションを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。ワークステーションをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



POINT

- ▶ 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクション・チェックポイント」としてまとめられています。詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt/>) の解説をご覧ください。

ディスプレイ

- 外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように調整しましょう。
- 目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

使用時間

- 1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ～ 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 ～ 2 分程度の小休止を 1 ～ 2 回取り入れましょう。

入力機器

- キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるようにして使い、手首や肘は机、椅子の肘かけなどで支えるようにしましょう。

机と椅子

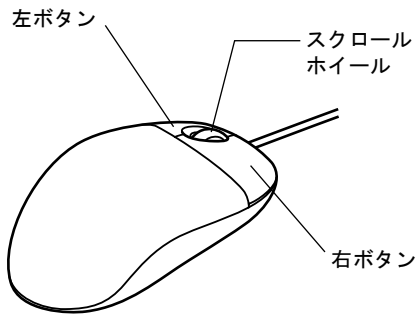
- 高さが調節できる机や椅子を使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。
 - ・ 机が高すぎる場合は、椅子を高く調節しましょう。
 - ・ 椅子が高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- 椅子は、背もたれ、肘かけ付きを使用しましょう。

作業スペース

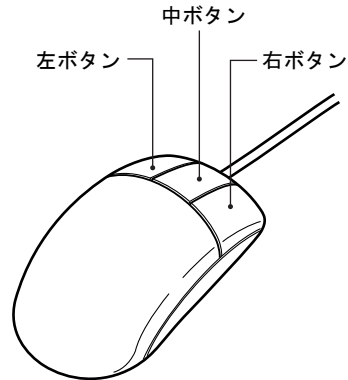
- 机上のワークステーションの配置スペースと作業領域は、充分確保しましょう。スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、椅子の肘かけなどを利用して腕を支えましょう。

2 マウスについて

■ 2 ボタンマウス



■ 3 ボタンマウス



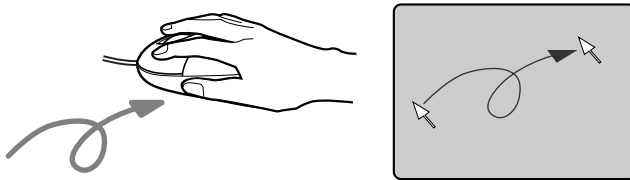
POINT

▶ マウスは、定期的なクリーニングしてください (→ P.46)。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押します。

また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。



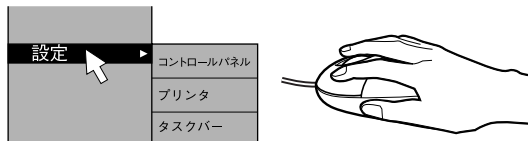
● ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



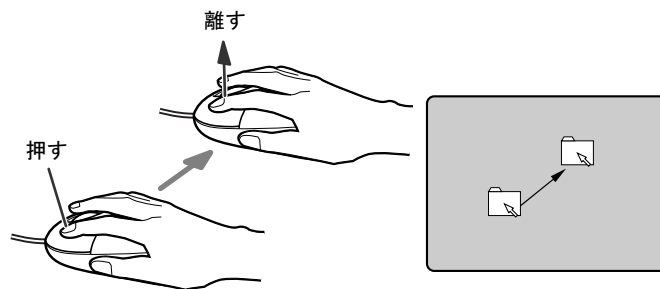
● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。



● ドラッグ

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール（スクロールボタン付きのマウスのみ）

- ・スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・スクロール機能は、対応したソフトウェアで使うことができます。

POINT

- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで右利き用（主な機能に左側のボタンを使用）に設定した場合の操作です。
- ▶ 3ボタンマウスの場合、中ボタンは対応するソフトウェアで使用できます。

光学式マウスについて

光学式マウスは、底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
 - ・ マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・ センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
 - ・ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

POINT

- ▶ 光学式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ▶ マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- ▶ 光学式マウスは、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているため、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

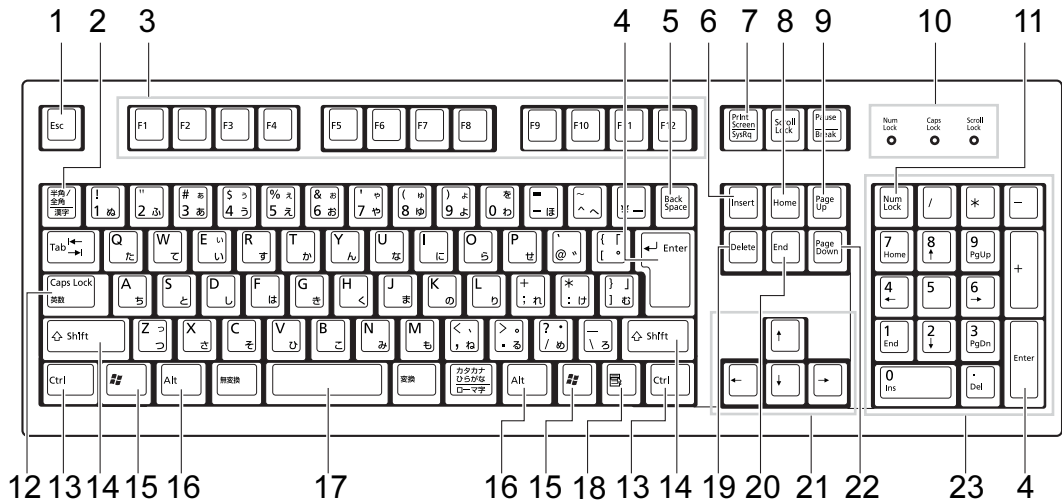
3 キーボードについて

キーボード（109A 日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- ▶ お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 【Esc】 キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】 + 【Shift】 キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【半角/全角】 キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

3 【F1】 ~ 【F12】 キー

ソフトウェアごとにいろいろな役割が割り当てられています。

4 【Enter】 キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

5 【Back Space】 キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

6 【Insert】 キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

7 【Print Screen】 キー

画面のコピーをクリップボードに取り込みます。また、【Alt】 キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

8 【Home】 キー

カーソルを行の最初に一度に移動します。

【Ctrl】 キーと一緒に押すと、文章の最初に一度に移動します。

9 【Page Up】 キー

前の画面に切り替えます。

10 インジケータ

【Num Lock】 キー、【Shift】 + 【Caps Lock 英数】 キー、【Scroll Lock】 キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

11 【Num Lock】 キー

テンキーの機能を切り替えます。再度押すと、解除されます。

12 【Caps Lock 英数】 キー

【Shift】 キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

13 【Ctrl】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

14 【Shift】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

15 【】 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

16 【Alt】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

17 【Space】 キー

空白を入力します（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

18 【】 (アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

19 【Delete】 キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】 + 【Alt】 キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウまたは「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示され、システムを強制終了できます。

20 【End】 キー

カーソルを行の最後に移動します。

【Ctrl】 キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

21 カーソルキー

カーソルを移動します。

22 【Page Down】 キー

次の画面に切り替えます。

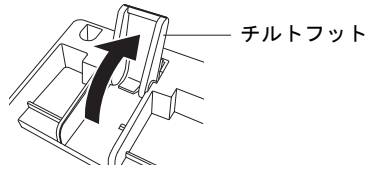
23 テンキー

「Num Lock」 インジケータ点灯時に数字が入力できます。

「Num Lock」 インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

 **POINT**

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



4 CD / DVD について

CD / DVD の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

重要

- ▶ ここでは、CD-ROM、音楽CDおよびCD-R/RWディスクをまとめてCD、DVD-ROMやDVD-VideoなどをまとめてDVDと呼んでいます。また、CDやDVDをまとめてディスクと呼びます。
- ▶ カスタムメイドで選択したドライブによって、使用できるディスクは異なります。
- ▶ 「Roxio DigitalMedia」、「DVD-RAM ドライバソフト」については「ソフトウェア」-「ソフトウェア一覧」(→P.116)をご覧ください。

取り扱い上の注意

■ ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ワークステーション本体のCDアクセスランプが点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。
- CD自動挿入機能(オートラン)が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従ってCD自動挿入機能を設定してください。
- ディスクに書き込み中は、ワークステーション本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押す操作もしないでください。
- 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ディスクへの書き込みを行うときは、自動的にスタンバイまたは休止状態にならないように、省電力の設定を変更してください。
- ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。

■ DVDディスクご使用時の注意事項

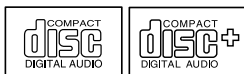
- 次のDVDディスクがお使いになれます。
 - ・DVDディスクに記録されているリージョンコードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク

- DVD-Video を再生するためには、別途ソフトウェアをご購入していただく必要があります。推奨しているソフトウェアは次のとおりです。
 - ・「WinDVD™ 7」
- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付されている再生ソフトについては、弊社では保証いたしません。
- リージョン（地域）コードについて
 - ・ リージョン（地域）コードの変更は 4 回までです。
リージョン（地域）コードを 4 回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - ・ 前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとすると、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ・ ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。

■ ドライブの注意事項

- 本ワークステーションは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスクご使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- コピーコントロール CD は、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本ワークステーションでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。

なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



POINT

- ▶ スーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
 - ・ 不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - ・ 本ワークステーションでは DVD-Audio など「使用できるディスク」（→ P.32）に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。

使用できるディスク

本ワークステーションで使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。お使いのドライブの表をご覧ください。

なお、DVD-RAM/R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW および DVD+R DL は、「PC データ用」をお使いになることをお勧めします。















POINT

- ▶ 本ワークステーションでは 8cm および 12cm のディスクをお使いになれます。ただし、8cm のディスクをお使いになる場合は、ワークステーション本体を横置きにしてください。

□ CD-ROM ドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD	 	○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	×	×
CD-RW	 	○	×	×

□ スーパーマルチドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD	 	○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	○注1	×
CD-RW注2	 	○	○注1注3	○注3
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R (for Authoring) (3.95GB / 4.7GB)		○	×	×
DVD-R (for General) (4.7GB)		○	○注1	×
DVD-R DL (8.5GB)		○	○注4	×
DVD-RW		○	○注1注3	○注3
DVD+R (4.7GB)		○	○注1	×
DVD+R DL (8.5GB)		○	○注1	×
DVD+RW (4.7GB)		○	○注1注3	○注3
DVD-RAM注5 (4.7GB / 9.4GB)		○	○	○
DVD-RAM2注6		×	×	×

- 注 1 : CD-R や CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW へのデータの追記は「Roxio DigitalMedia」で行います。なお、データの追記を行うためには、「Roxio DigitalMedia」を使って CD/DVD にデータの書き込みを行う際に、CD/DVD を追記可能な状態にしておく必要があります。
詳しくは、「Roxio DigitalMedia」のヘルプをご覧ください。
- 注 2 : 書き換え速度については、最大 10 倍速までを保証します。
- 注 3 : CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。
- 注 4 : DVD-R DL には追記はできません。
- 注 5 : ・ DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ (Type1) は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。
・ 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。
- 注 6 : DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12、16 倍速に対応した DVD-RAM です。

□ 推奨ディスク

本ワークステーションで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします。なお、使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。

CD-R

太陽誘電 : CDR-74WTY、CDR-74WPY、CDR-80WTY、CDR-80WPY

CD-RW

三菱化学メディア : SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1

DVD-R

三菱化学メディア : DHR47JP

太陽誘電 : DVD-R47WPY、DR-47WTY

DVD-R DL

三菱化学メディア : DHR85YP1

DVD-RW

日本ビクター : VD-W47F、VD-W47H

DVD+R

三菱化学メディア : DTR47JP

太陽誘電 : DVD+R47TY、DR+47WTY

DVD+R DL

三菱化学メディア : DTR85N1、DTR85H1

DVD+RW

リコー : DRWD-4XPC、D4RWD-S1CW

三菱化学メディア : DTW47U1

DVD-RAM

日立マクセル : DRM47C.1P (4.7GB、カートリッジ無)、
DRMC47C.1P (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、
DRMC94C.1P (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み、書き換え速度の低下や正常に書き込み、書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ カスタムメイドでスーパーマルチドライブを選択した場合は、次のことにご注意ください。
 - ・本ワークステーションで作成した CD-R/CD-RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
 - ・本ワークステーションで作成した DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW および DVD+R DL は、お使いになる DVD プレーヤーによっては、再生できない場合があります。また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。
 - ・ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視などを行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

DVD-RAM への書き込み／書き換えについて

本ワークステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM を作成する場合には、あらかじめ DVD-RAM ディスクをフォーマット（初期化）する必要があります。

9.4GBの両面タイプのDVD-RAMディスクについては、片面ごとにフォーマットしてください。

2.6/5.2GB の DVD-RAM ディスクについては使用できません。

■ DVD-RAM のフォーマット形式

DVD-RAM ディスクのフォーマットには、次のものがあります。

□ FAT 形式

Windows の標準フォーマットで、ハードディスクなどでも使用されています。

- FAT32

Windows の標準フォーマットです。

□ UDF (Universal Disk Format) 形式

DVD の統一標準フォーマットです。UDF 形式でフォーマットした DVD-RAM メディアでは、エラーチェックツールや最適化（デフラグ）ツールは実行できません。

- UDF1.5

DVD-RAM ディスクの標準フォーマットです。

- UDF2.0（「DVD-RAM ドライバソフト」のみ選択可能）

DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

■ ソフトウェアについて

本ワークステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM に書き込み、書き換えする場合は、次のソフトウェアがお使いになれます。

- Windows 標準のドライバ

Windows が標準でサポートしているドライバで DVD-RAM の書き込み、書き換えを行うことができます。

DVD-RAM のフォーマット形式は、FAT32 に対応しています。

「DVD-RAM ドライバソフト」をインストールすると、機能が強化されます。

- 「DVD-RAM ドライバソフト」

ハードディスクと同様の操作で DVD-RAM に書き込み、書き換えを行う場合は、「DVD-RAM ドライバソフト」をインストールしてください。インストールする場合は、「DVD-RAM ドライバソフト」CD-ROM を用意してください。

インストール方法は、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→ P.116）をご覧ください。

DVD-RAM のフォーマット形式は、FAT32、UDF1.5 および UDF2.0 に対応しています。

■ DVD-RAM ディスクに書き込むための準備

DVD-RAM ディスクに書き込む前に、ドライブの設定を変更し、DVD-RAM ディスクをフォーマットしてください。

- 初めてDVD-RAMディスクに書き込む場合は、次の手順でドライブの設定を変更してください。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. DVD-RAM を割り当てているドライブを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 3. 「書き込み」タブで「このドライブでCD書き込みを有効にする」のチェックを外します。
 4. 「OK」をクリックします。
- DVD-RAM ディスクをフォーマットする場合は、お使いになる目的にあわせて、フォーマット形式を選んでください。

ディスクをセットする／取り出す

⚠ 注意

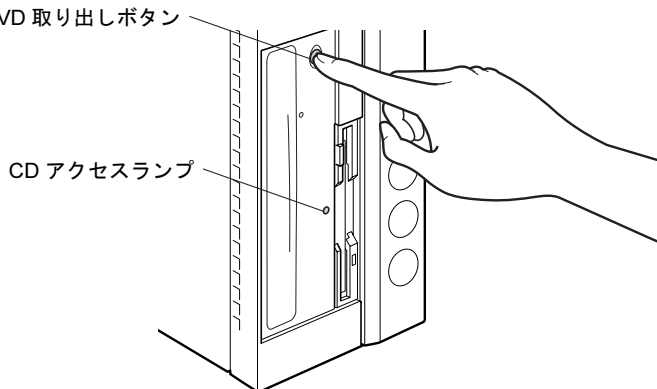


- CDやDVDをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVDドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

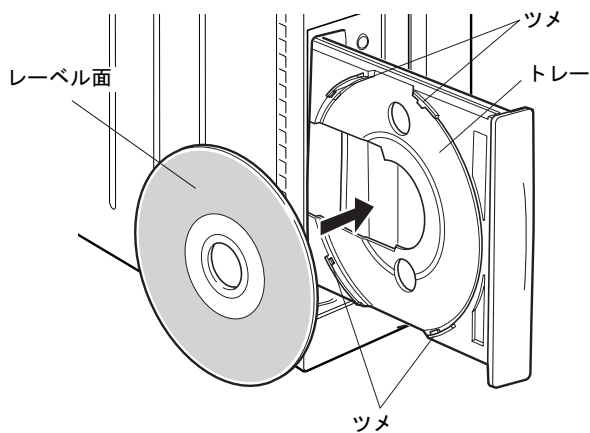
■ ディスクをセットする

- 1 CD/DVD 取り出しボタンを押します。
ディスクをセットするトレーが出てきます。

CD/DVD 取り出しボタン

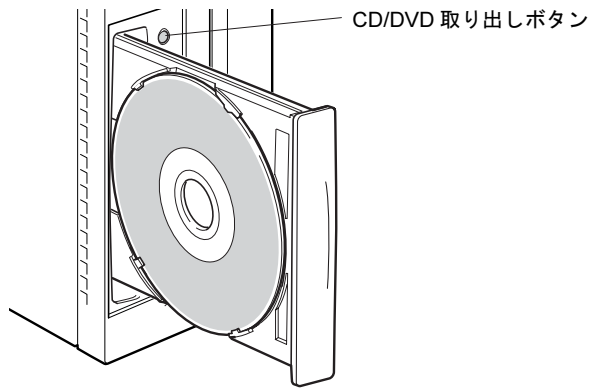


- 2 ディスクのレーベル面を左にして、トレーの中央に置きます。
ディスクの落下を防止するためのツメ（4ヶ所）で固定します。



3 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

トレイがワークステーション本体に入り、ディスクがセットされます。



POINT

- ▶ ディスクをセットすると、CD アクセランプが点滅します。CD アクセランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

■ ディスクを取り出す

ディスクを取り出す場合は、CD アクセランプが消えていることを確認してから、CD/DVD 取り出しボタンを押してください。

5 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露させたり、濡らしたりしないでください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

注意



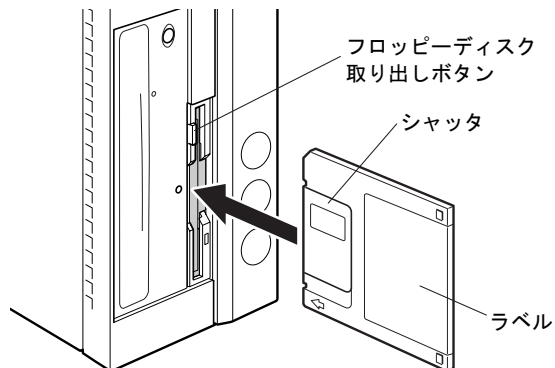
- フロッピーディスクをセットするとき、および取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

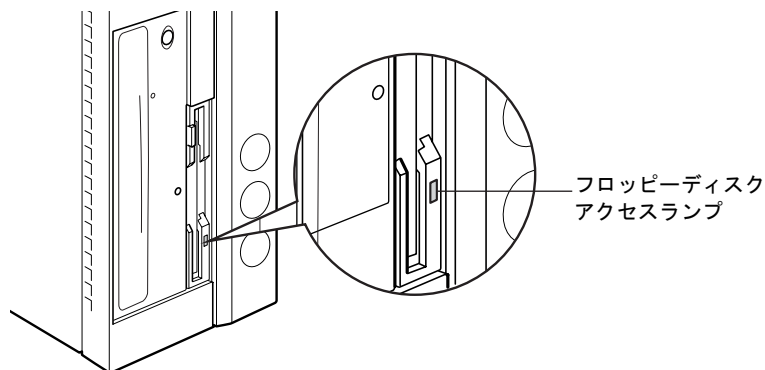
■ フロッピーディスクをセットする

- 1 ラベル面を左にしてシャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクを取り出す

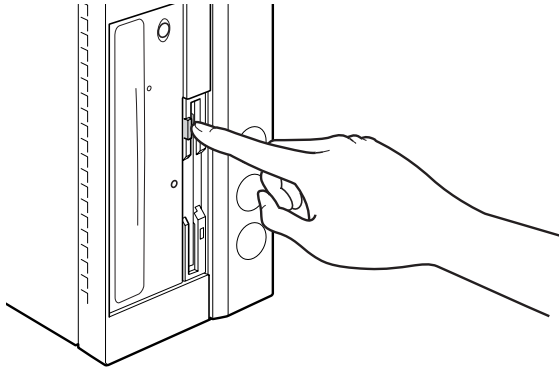
- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。



POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2** フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



6 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きをしています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態でもワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所でのご使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所でのご使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでのご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露させたり、濡らしたりしないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

7 CPU について

本ワークステーションに搭載されている CPU で使用できる機能は、次のとおりです。

重要

- ▶ ここで説明する CPU の各機能は、Windows XP モデルで、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP SP2）をインストールした場合のみお使いになれます。その他の OS をお使いになる場合の動作保証はいたしません。
なお、Windows XP モデルには、あらかじめ Windows XP SP2 がインストールされています。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP SP2）のデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

この機能を有効にするか無効にするかは、BIOS セットアップで設定します。ご購入時は、有効に設定されています。

この機能を有効にした場合は、次のようになります。

- 「システムのプロパティ」ウィンドウの「全般」タブに、「物理アドレス拡張」というメッセージが表示されます。
- データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「データ実行防止」ウィンドウに「コンピュータの保護のため、このプログラムは Windows により終了されました。」というメッセージが表示されます。
この場合は、「データ実行防止」ウィンドウの「その他の詳細情報を表示します。」をクリックして表示される対処方法に従ってください。

■ ハイパー・スレディング・テクノロジー機能

ハイパー・スレディング・テクノロジー機能は、1 つの CPU を 2 つあるかのように見せかけることによってソフトウェアの複数処理の性能を高め、作業効率を上げることができます。

この機能を有効にするか無効にするかは、BIOS セットアップで設定します。ご購入時は、無効に設定されています。設定を変更する方法などは、『取扱説明書』をご覧ください。

8 ハードウェアのお手入れ

ワークステーション本体のお手入れ

警告

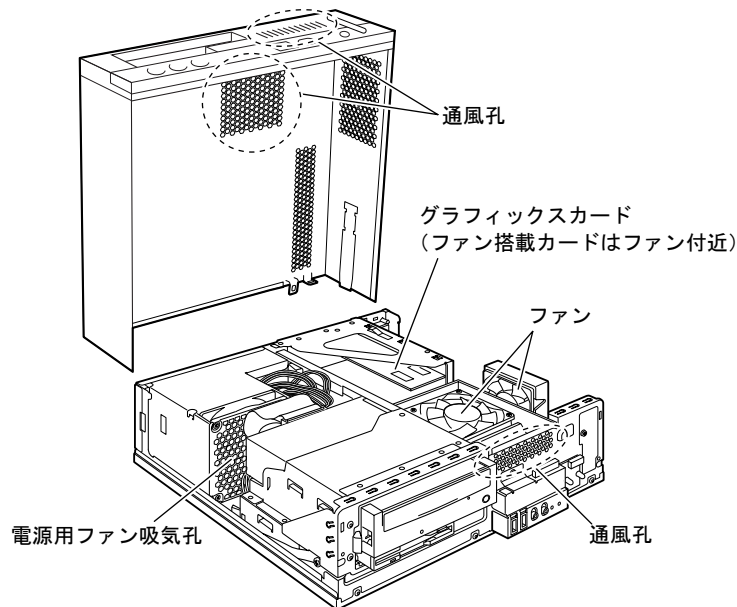


- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

- 柔らかい布で、から拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。
- ワークステーション本体内部にほこりがたまると、故障の原因となります。通風孔にほこりがたまらないように定期的に清掃してください。

重要

- ▶ ワークステーション本体内部のほこりがたまりやすい箇所です。故障の原因となりますので、ほこりがたまらないように定期的に清掃してください。



- ▶ ワークステーション本体内部の部品には触れないでください。異音や故障の原因となりますので、CPU ファンの羽根およびその他のワークステーション本体内部の部品には、極力手を触れないでください。
- ▶ 清掃時には、十分に換気してください。清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、十分に換気してください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、マウス内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

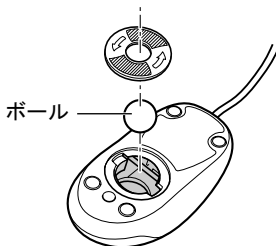
また、PS/2 マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。

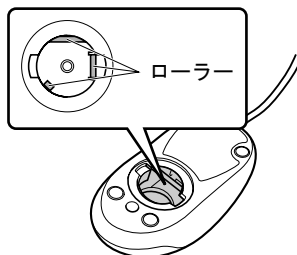
**2** ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。

**3** マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。

ローラーは、綿棒で拭きます。

**4** ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のはこりなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

■ 用意するもの

商品名：クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

クリーニングフロッピーマイクロは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ お手入れのしかた

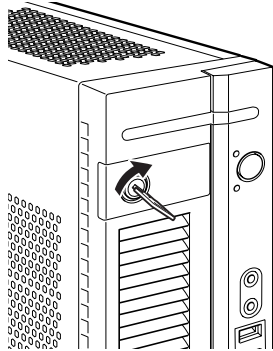
- 1** クリーニングフロッピーをセットします。
- 2** デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「3.5 インチ FD (A:)」をクリックします。
フロッピーディスクドライブのクリーニングが開始されます。
- 4** 「ドライブAのディスクはフォーマットされていません。今すぐフォーマットしますか？」のメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
- 5** フロッピーディスクへのアクセスが終了したことを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 6** 「マイコンピュータ」ウィンドウを閉じます。

9 筐体のセキュリティ

ワークステーション内部のデバイス（ハードディスクや CPU など）を盗難から守るため、本ワークステーションに施錠できます。

ワークステーション本体前面の施錠方法（カスタムメイドオプション）

- 1 ワークステーション本体前面の鍵穴に、添付の本体カバーキーを差し込み、右に回します。

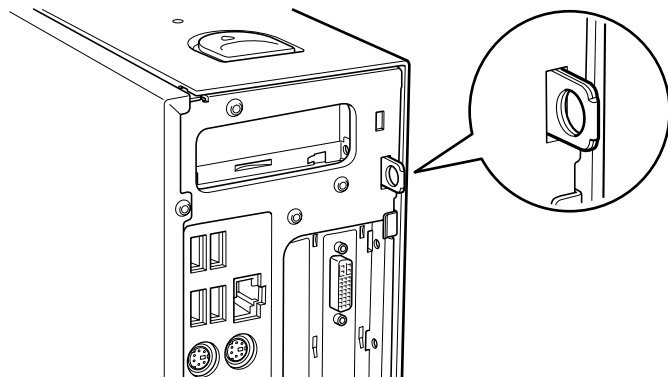


重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

ワークステーション本体背面の施錠方法

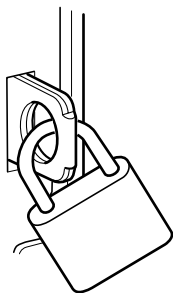
- 1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。



POINT

- ▶ セキュリティ施錠金具の穴径は、 $\phi 7.5\text{mm}$ です。

- 2 ワークステーション本体背面のセキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。



POINT

- ▶ セキュリティ施錠金具には、次のセキュリティワイヤも使用できます。
商品名：セキュリロックワイヤ .TOP
商品番号：1690290
セキュリロックワイヤ .TOP は、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

第3章 増設

3

本ワークステーションに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

- | | |
|----------------------|----|
| 1 周辺機器を取り付ける前に | 52 |
| 2 本体カバーを取り外す | 54 |
| 3 メモリを取り付ける | 56 |
| 4 拡張カードを取り付ける | 63 |

1 周辺機器を取り付ける前に

本ワークステーションは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

⚠ 警告



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



- 周辺機器などの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをすおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。火傷の原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります
ご購入の前に富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、ワークステーションが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
弊社純正品以外の動作については、サポートしておりません。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切ってください
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーションの電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。

- **内蔵の周辺機器について**

標準搭載およびカスタムメイドの選択によって搭載された機器は、ご購入時の状態から搭載位置やケーブルの接続先などを変更することをサポートしておりません（マニュアルなどに指示がある場合を除く）。
- **電源ユニットは分解しないでください**

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です。
詳しくは、「各部名称」－「ワークステーション本体内部」（→ P.18）をご覧ください。
- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください**

傷つけたり、加工したりしないでください。
- **柔らかい布の上などで作業してください**

固いものの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くおそれがあります。
- **静電気に注意してください**

内蔵周辺機器は、プリント基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **プリント基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください**

金具の部分や、プリント基板のふちを持つようにしてください。
- **周辺機器の電源について**

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI 対応の OS で周辺機器をお使いになる場合、周辺機器が ACPI に対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPI に対応していない周辺機器を使うと、周辺機器が正常に動作しないおそれがあります。
- **ドライバーを用意してください**

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要な場合があります。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体カバーを取り外す

周辺機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外して、内部が見える状態にします。

⚠ 警告



- 本体カバーの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- 本体カバーの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

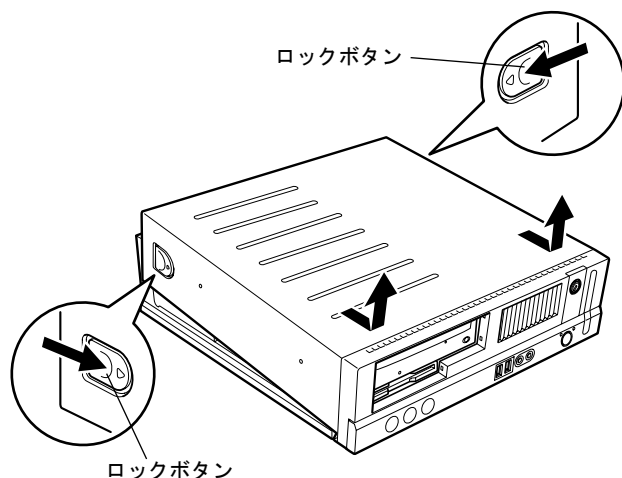
本体カバーの取り外し方

メモリなどの周辺機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外します。取り外し方は、次のとおりです。

なお、フット（→ P.14）を取り付けている場合は、ワークステーション本体からフットを取り外し、横置きにしてから本体カバーを取り外してください。

1 ワークステーション本体両側のロックボタンを本体前面にスライドさせ、本体カバーを取り外します。

ワークステーション本体前側にスライドさせてから、上に持ち上げて取り外します。お使いの機種により、本体カバーの取り外しが硬く感じる場合があります。



 **POINT**

- ▶ 本体カバーを施錠している場合は、解錠してください。
- ▶ 本体カバーを取り付ける場合は、取り外す場合と逆の手順で行ってください。
本体カバーは、ワークステーション本体背面側に、突き当たるまでしっかりとスライドさせてください。

3 メモリを取り付ける

本ワークステーションのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください（→『取扱説明書』）。
- ▶ メモリを増設した後は、仮想メモリを設定する必要があります。設定方法は、「トラブルシューティング」－「ハードウェア関連のトラブル」（→ P.189）をご覧ください。

警告



- メモリの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

注意



- メモリの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



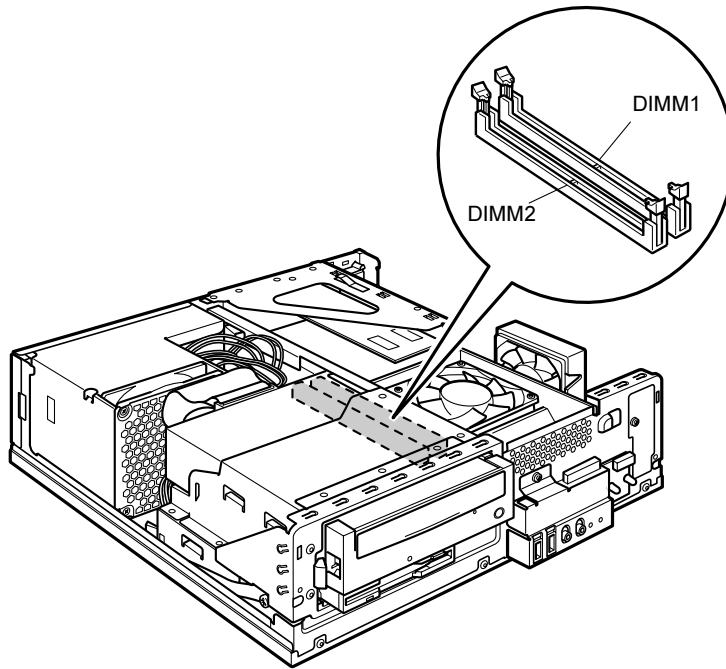
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。火傷の原因となることがあります。

メモリの取り付け場所

メモリは、ワークステーション本体内部のメモリスロットに取り付けます。



3

取り付けられるメモリ

本ワークステーションにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「拡張 RAM モジュール DDR2 SDRAM PC2-4200 対応 (ECC あり)」をお使いください。

■ メモリの組み合わせ表

本ワークステーションには、最大で2GBのメモリを取り付けることができます。メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。表以外の組み合わせでは、本ワークステーションが正しく動作しない場合があります。

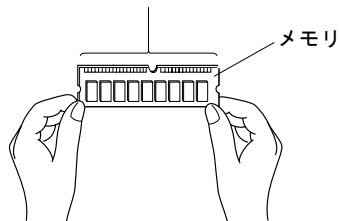
DIMM1	DIMM2	総容量
256 MB	256 MB	512 MB (標準)
512 MB	512 MB	1 GB
1 GB	1 GB	2 GB

メモリを取り付ける

重要

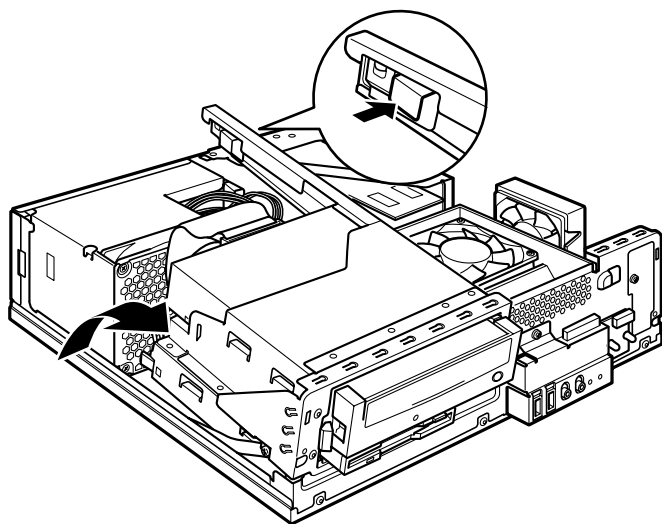
- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- ▶ メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。

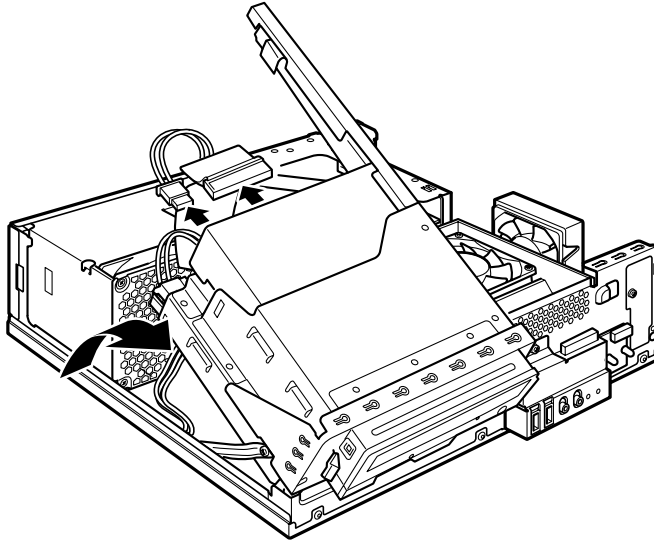


- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、メモリが補助金具などに触れないように注意してください。

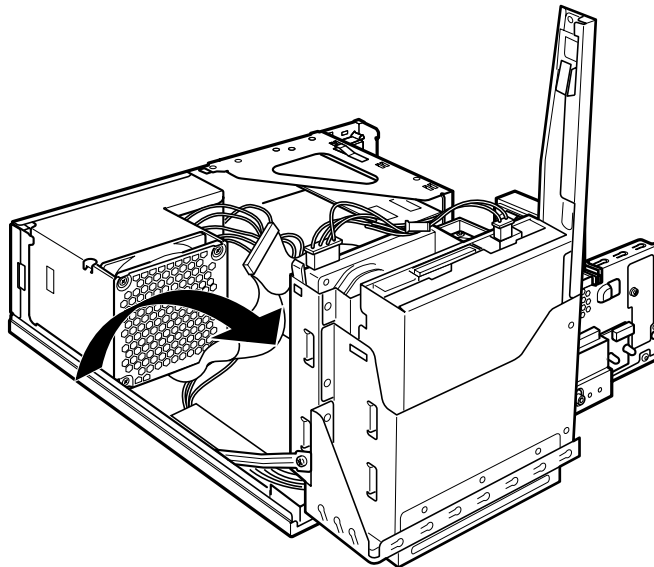
- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3** 本体カバーを取り外します（→ P.54）。
- 4** 留め具のロックボタンを押しながら、ドライブユニットを前に起こします。



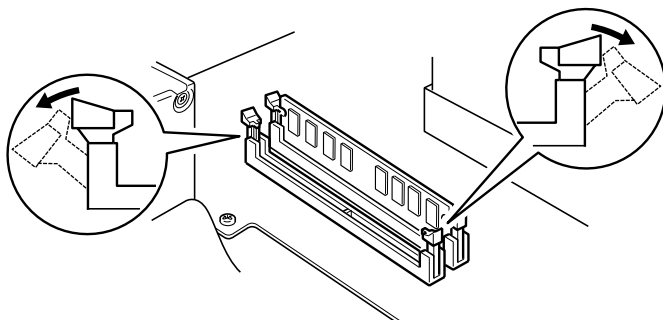
- 5** ドライブユニットを前に起こしている途中で、CD-ROM ドライブのフラットケーブルと電源ケーブルを取り外します。



- 6** ドライブユニットが垂直になるまで引き起こします。



7 スロットの両側のフックを外側に開きます。



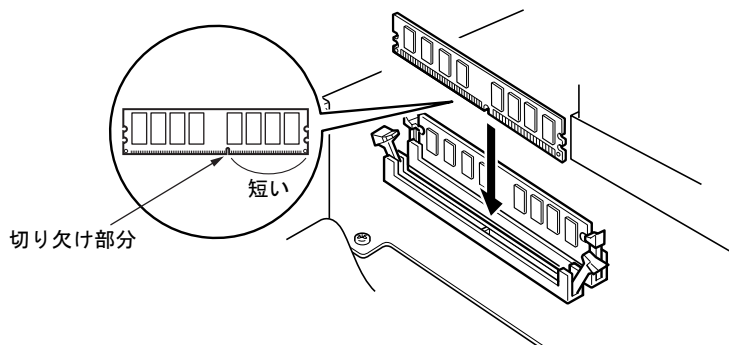
POINT

- ▶ スロットの両側のフックを外側に開くときは、勢いよく開かないように注意してください。フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリを取り付けにくい場合
ハードディスクドライブにケーブルが接続されていると、メモリを取り付けにくい場合があります。そのような場合は、ハードディスクドライブからケーブルを取り外した後、メモリを取り付けてください。
なお、メモリを取り付けた後は、忘れずにハードディスクドライブにケーブルを接続してください。

8 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。

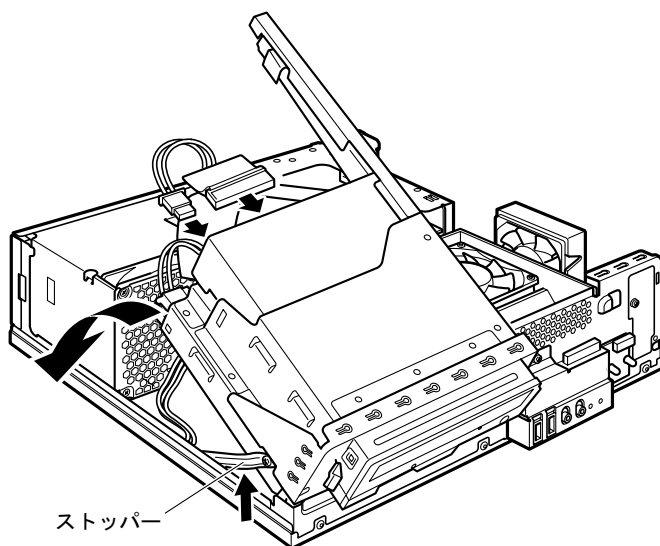
正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、フックがメモリをしっかり固定しているか確認してください。



POINT

- ▶ 逆向きに差し込んだ場合、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。
- ▶ メモリ素子の状態はイラストと異なる場合があります。

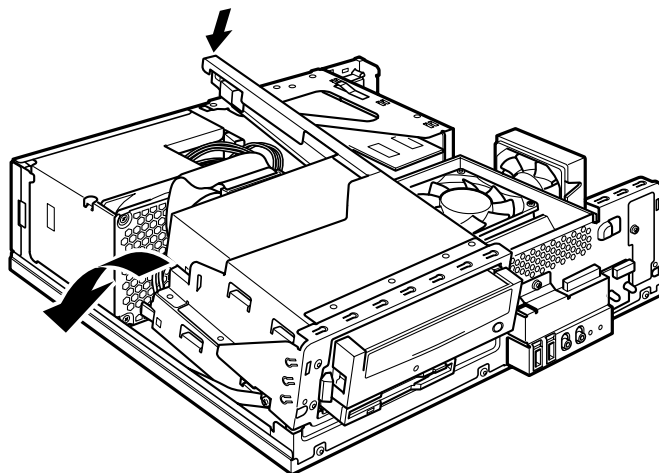
- 9** CD-ROM ドライブにフラットケーブルと電源ケーブルを取り付けます。
ドライブユニットを支えているストッパーを外して、ドライブユニットを少し倒してから取り付けてください。



POINT

- ▶ 電源ケーブルはフラットケーブルの内側にしまってください。

- 10** ドライブユニットを元の位置に戻し、留め具部分を押さえてロックします。
元の位置に戻すとき、未使用の電源コネクタ先端内部の金属端子が、金属部品に接触しないことを確認し、電源ユニットからの配線をロック部に噛み込まないようにしてください。

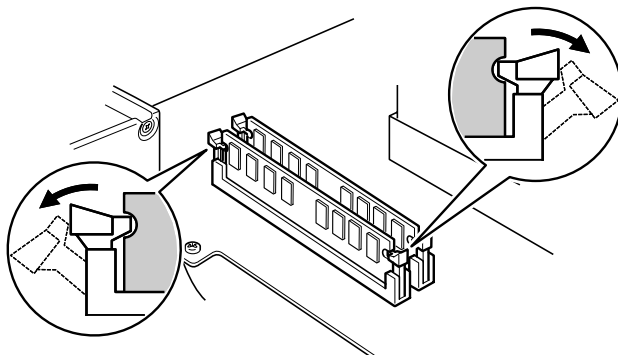


- 11** 本体カバーを取り付けます。
- 12** 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。

13 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

POINT

- ▶ メモリが正しく取り付けられているかどうかは、次の手順で確認してください。
 1. BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」(→ P.131)をご覧ください。
 2. 「Info」－「DIMM1(CH-A)2(CH-B)」でメモリの容量を確認します。
メモリの容量が正しくない場合は、取り付けたメモリが本ワークステーションで使用できることを確認後、もう一度やり直してください。
- ▶ メモリを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。なお、取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。
- ▶ スロットの両側のフックを外側に開くときは、勢いよく開かないように注意してください。フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがあります。



4 拡張カードを取り付ける

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください（→ 『取扱説明書』）。
- ▶ 本ワークステーションでは、すべての PCI Express x1 規格および PCI 規格の拡張カードについて動作保障するものではありません。
- ▶ 増設する PCI Express x1 カードや PCI カードが起動 ROM BIOS を搭載している場合、その種類や増設数により、ワークステーション本体が起動できないことがあります。このような場合は、増設する PCI Express x1 カードや PCI カードの BIOS を無効にすることにより、現象を回避できることがあります。増設する PCI Express x1 カードや PCI カードの BIOS を無効にする方法は、各カードのマニュアルをご覧ください。

警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

注意



- 拡張カードの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをすおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



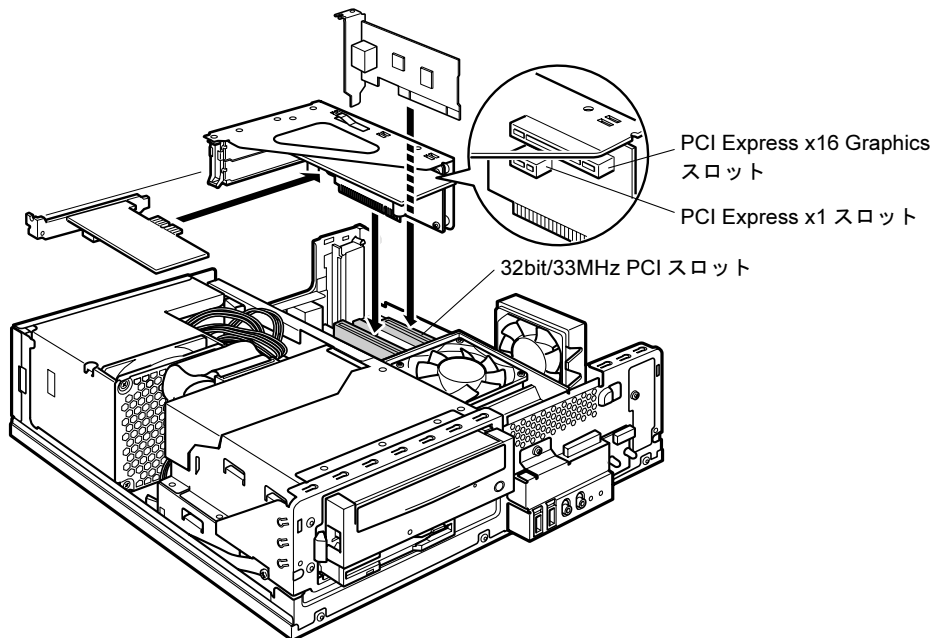
- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをすおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。火傷の原因となることがあります。

拡張カードの取り付け場所

拡張カードは、ワークステーション本体内部の拡張カードスロットに取り付けることができます。

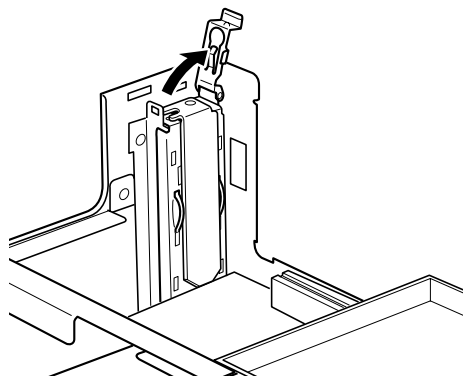


本ワークステーションには、PCI Express x1 規格と PCI 規格の拡張カードを取り付けられます。PCI Express x1 スロットには、最大長 176mm の拡張カード（ハーフサイズ）を取り付けることができます。32bit/33MHz PCI スロットには、最大長 176mm の Low Profile 用 PCI 規格の拡張カード（ハーフサイズ）を取り付けることができます。

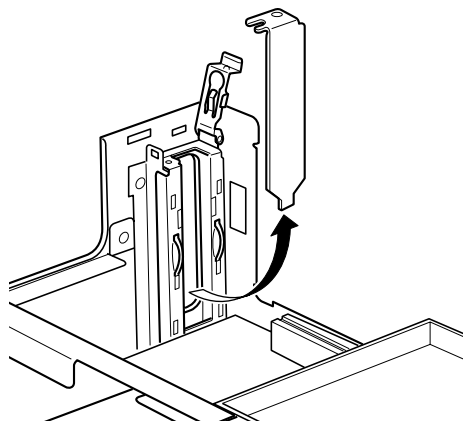
なお、カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。

PCI 規格の拡張カードを取り付ける

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3 本体カバーを取り外します (→ P.54)。
- 4 スロットカバーロックを押し上げます。



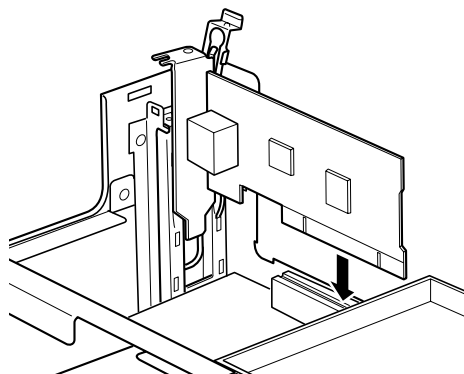
- 5 スロットカバーを取り外します。



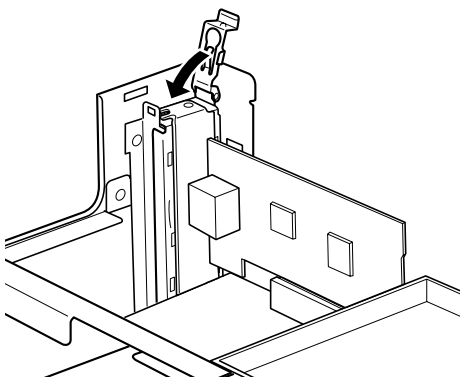
POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる際、ワークステーション内部にゴミが入らないよう取り付けます。

- 6** 拡張カードをコネクタに差し込みます。
拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。



- 7** スロットカバーロックを戻して固定します。



- 8** 本体カバーを取り付けます。
- 9** 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。
- 10** 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。
デバイスマネージャとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

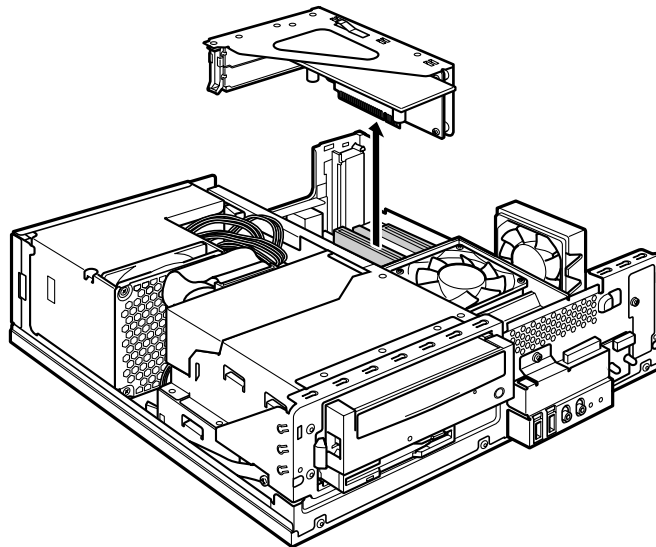
- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付ける

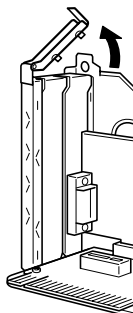
POINT

- ▶ カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合は、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。

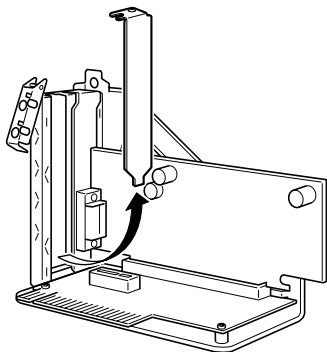
- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3** 本体カバーを取り外します (→ P.54)。
- 4** 拡張カード取り付け金具を取り外します。
拡張カード取り付け金具は真上に引き上げてください。
すでに拡張カードが増設されている場合は、増設された拡張カードに接続されているケーブルを抜いてから、取り外してください。



- 5** スロットカバーロックを押し上げます。



6 スロットカバーを取り外します。

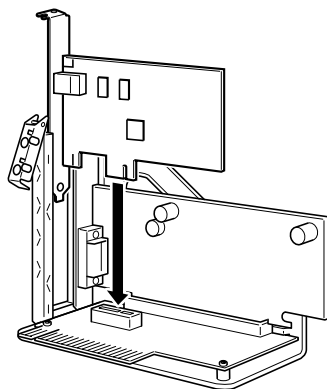


POINT

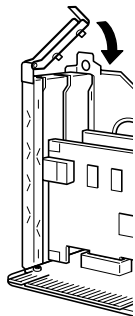
- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる際、ワークステーション内部にゴミが入らないよう取り付けます。

7 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。

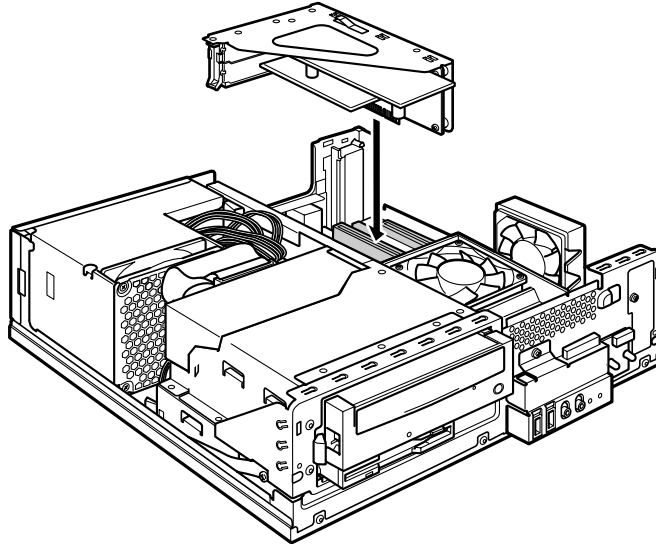


8 スロットカバーロックを戻して固定します。



9 拡張カード取り付け金具を取り付けます。

ツメがきちんと背面にかかるように、垂直に取り付けてください。

**10** 本体カバーを取り付けます。**11** 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。**12** 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

デバイスドライバとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

Memo

第4章 機能

4

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

1 ディスプレイ関連	72
2 音量の設定	85
3 通信	88
4 ドライブ関連	90
5 省電力	92
6 その他	99

1 ディスプレイ関連

解像度と色数について

本ワークステーションでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。

なお、Windows の色数は「中」が 6 万 5 千色、「最高」が 1677 万色です。

- 「RADEON X300 SE の場合」 (→ P.72)
- 「FireGL V5000 の場合」 (→ P.73)
- 「Quadro FX 550、Quadro FX 1500 の場合」 (→ P.74)

■ RADEON X300 SE の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP
800 × 600	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1920 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1920 × 1440	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
2048 × 1536	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP
800 × 600	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	

■ FireGL V5000 の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP
800 × 600	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1920 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
2048 × 1536	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP
800 × 600	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	

■ Quadro FX 550、Quadro FX 1500 の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP
800 × 600	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1920 × 1200	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1920 × 1440	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
2048 × 1536	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP
800 × 600	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	○
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	○注
	最高 (32 ビット)	

注：Quadro FX 550 にカラー液晶ディスプレイ VL-200VH をデジタル接続する場合は、ご利用可能な最大解像度は 1280 × 1024 になります。

POINT

- ▶ 必ず他のソフトウェアや常駐しているソフトウェアをすべて終了してから、解像度、色数を変更してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。再起動しない場合、本ワークステーションの動作が不安定になる場合があります。
- ▶ 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。表示可能な解像度以外の解像度ではお使いにならないでください。表示可能な解像度はディスプレイのマニュアルでご確認ください。なお、すべてのディスプレイについて動作保証するものではありません。
- ▶ ソフトウェアによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。
- ▶ FireGL V5000 は、256 色の発色数は指定できないため、256 色の発色を必要とするソフトウェア（Windows Media Player での視覚エフェクトの全画面表示など）はお使いになれません。

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。
- 4** 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。
設定が有効になります。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、手順 3 に戻り再度解像度などを選択します。

■ 補足情報

「画面のプロパティ」ウィンドウ内にはディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプをご覧ください。通常は初期設定値でお使いください。

マルチディスプレイ機能

本ワークステーションには、搭載しているグラフィックスカード1枚で、2台のディスプレイを接続して表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

POINT

- ▶ 搭載しているグラフィックスカードのみでマルチディスプレイ機能を使うことができるので、本体にグラフィックスカードを増設する必要はありません。

■ 注意事項

- 本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を必ず入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、本体の電源を入れる前に、デジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。本体の電源を入れたあとにデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、本体の電源を切り、その後に電源を入れ直してください。
- マルチディスプレイ機能を使用する場合、必ず Windows のセットアップを行ってから、もう一方のディスプレイケーブル (DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続含む) を接続してください。
- マルチディスプレイ機能には、次の3つの機能があります。

・クローン機能

プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能です。各ディスプレイの設定（解像度、色数、リフレッシュレート）は、選択可能な範囲で同一に設定してください。

なお、表示可能な解像度が異なるディスプレイ2台でマルチディスプレイ機能を使う場合、表示は解像度が低いディスプレイに依存します。解像度が低いディスプレイにあわせて画面を設定してください。

・マルチモニタ機能

デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台のディスプレイを使って表示する機能です。

OS 上では、2台のディスプレイとして認識されます。各ディスプレイの設定（解像度、色数、リフレッシュレート）は、選択可能な範囲でディスプレイごとに設定してください。

・スパン機能

デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台で1台のディスプレイとして表示する機能です。

OS 上では、1台のディスプレイとして認識されます。1台のディスプレイとして解像度の設定を行うようにしてください。

各グラフィックスカードの対応は次のとおりです。

	クローン機能	マルチモニタ機能	スパン機能
RADEON X300 SE	○	○	—
FireGL V5000	○	○	—
Quadro FX 550 Quadro FX 1500	○	○	○

- お使いになる前に、ディスプレイのマニュアルなどを参照し設定してください。
- FireGL V5000、Quadro FX 550、Quadro FX 1500 では、DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、「DVI-VGA 変換アダプタ」が必要です。

- RADEON X300 SE では、アナログディスプレイを 2 台接続する場合は、添付の「マルチモニタケーブル」をお使いください。
- マルチディスプレイ機能を設定する場合は、設定を行う前に 2 台目のディスプレイを接続してください。2 台目のディスプレイが接続されていない場合は、マルチディスプレイ機能を設定することができません。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- マルチディスプレイ機能を設定すると、ディスプレイを 1 台のみ接続してお使いになる場合に比べて表示性能が若干低下しますのでご注意ください。
- 接続されていないディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を有効にしないでください。正常に動作しない場合があります。
- ディスプレイを取り外した場合、取り外したディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を無効にしてください。
- ピンボールなどのゲームや Windows Media Player などのマルチディスプレイ機能での動作を保証していないソフトウェアを全画面表示した場合、ソフトウェアを表示している画面以外のデスクトップの表示が正常に行われません場合があります。
- 動画再生ソフトによってはプライマリディスプレイの画面以外では動画が再生できない場合があります。その場合は、動画再生ソフトを最新版にアップデートしてください。

■ 用意するもの

□ RADEON X300 SE の場合

- マルチモニタケーブル
- アナログディスプレイ 2 台

□ FireGL V5000、Quadro FX 550、Quadro FX 1500 の場合

- DVI-VGA 変換アダプタ (DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合)
- アナログディスプレイまたはデジタルディスプレイ 2 台

マルチディスプレイ機能を設定する

- 「RADEON X300 SE の場合」 (→ P.78)
- 「FireGL V5000 の場合」 (→ P.80)
- 「Quadro FX 550、Quadro FX 1500 の場合」 (→ P.82)

POINT

- ▶ 「お使いのディスプレイ名」は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ 各項目の詳細は、調べたい項目の上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数(単位はHz)で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRT等のアナログディスプレイではリフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは85Hz又は75Hz、LCD等のデジタルディスプレイでは60Hzでご使用されることをお勧めします。

■ RADEON X300 SE の場合

□ クローン機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名]とRV370のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「画面」タブをクリックします。
- 4** 同時表示するディスプレイの「有効/無効」ボタン(→ P.79)をクリックして有効に設定します。
有効に設定すると、ボタンが押されてへこんだ状態になります。
- 5** 「OK」をクリックします。
「設定は適用されました。新しい設定を保存しますか?」と表示されます。
- 6** 「はい」をクリックします。
- 7** 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。
- 8** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72)をご覧ください。

POINT

- ▶ 解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。
- ▶ リフレッシュレートを一度60Hzにしてクローンモードを設定後、お好みのリフレッシュレートにしてください。

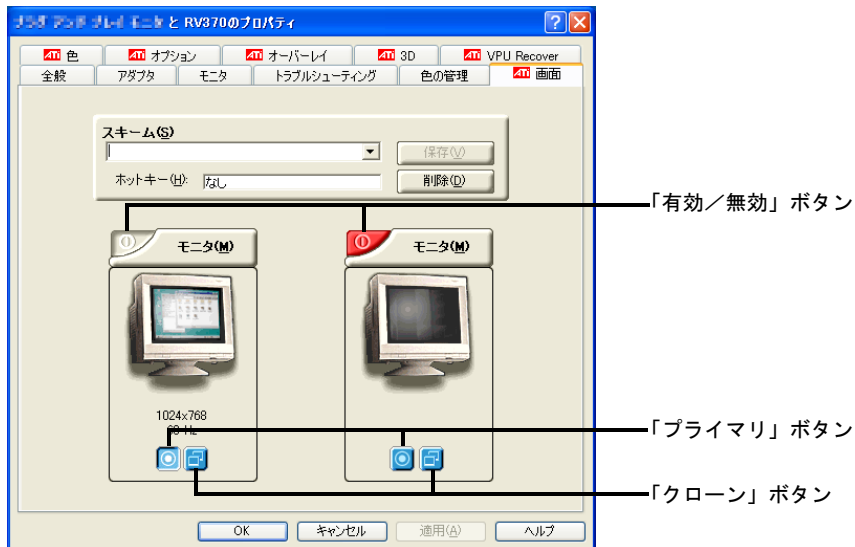
● 「画面」 タブの表示

POINT

▶ 「画面」 タブは、2 台のディスプレイを接続した場合のみ表示されます。

・ 「画面」 タブの表示方法

1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。



接続したディスプレイにより、表示の一部が異なります。

- ・ 各ボタンについて
 - ・ 「有効/無効」ボタン：丸に縦棒の入った絵の三角形のボタン、それぞれのディスプレイの絵の左上側にあります。
 - ・ 「プライマリ」ボタン：二重丸の絵の四角いボタン、それぞれのディスプレイの絵の下側にあります。
 - ・ 「クローン」ボタン：2つの四角が重なった絵の四角いボタン、それぞれのディスプレイの絵の下側にあります。
 - ・ 「プライマリ」ボタン (→ P.79) が有効になっているディスプレイをプライマリモニタと呼びます。
「クローン」ボタン (→ P.79) が有効になっているディスプレイをクローンモニタと呼びます。
有効の時は、ボタンが押されてへこんだ状態です。
 - ・ コマンドプロンプトをフルスクリーンで利用する場合、プライマリモニタに表示されません。
 - ・ クローンモニタの動画の再生画面の表示方法を全画面表示やウィンドウ表示に切り替えることができます。
- 次の手順で設定を変更してください。
1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。

3. 「オーバーレイ」タブをクリックします。
「オーバーレイの警告」ウィンドウが表示された場合は「OK」をクリックしてください。
4. 「シアターモードのオプション」をクリックします。
5. 「オーバーレイの表示モード」を任意に設定します。

□ マルチモニタ機能

- 1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72) をご覧になり、設定してください。

■ FireGL V5000 の場合

□ クローン機能

- 1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名]と ATI FireGL V5000 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「画面」タブをクリックします。
- 4 同時表示するディスプレイの「有効/無効」ボタン(→ P.81)をクリックして有効に設定します。
有効に設定すると、ボタンが押されてへこんだ状態になります。
- 5 「OK」をクリックします。
「設定は適用されました。新しい設定を保存しますか?」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
- 7 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。
- 8 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ 解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。
- ▶ リフレッシュレートを一度 60Hz にしてクローンモードを設定後、お好みのリフレッシュレートをしてください。

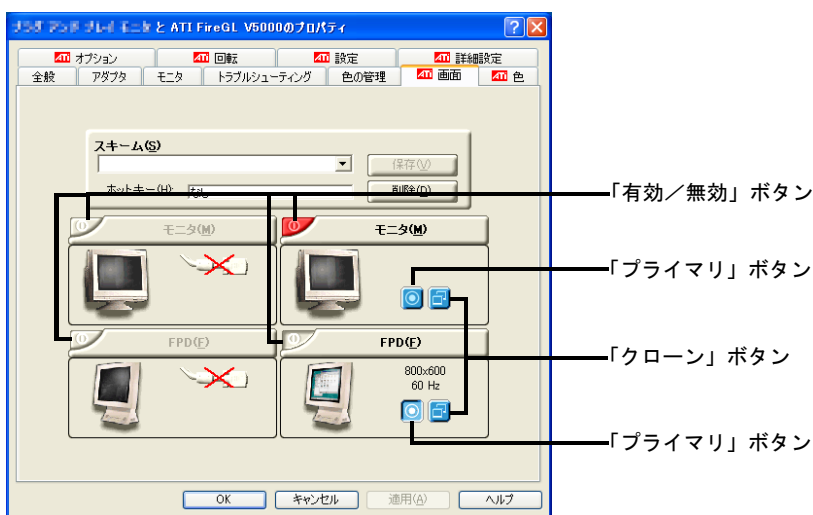
● 「画面」 タブの表示

POINT

- ▶ 「画面」タブは2台のディスプレイを接続した場合のみ、表示されます。

・「画面」タブの表示方法

1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。



接続したディスプレイにより、表示の一部が異なります。

- ・各ボタンについて
 - ・「有効/無効」ボタン：丸に縦棒の入った絵の三角形のボタン、それぞれのディスプレイの絵の左上側にあります。
 - ・「プライマリ」ボタン：二重丸の絵の四角いボタン、それぞれのディスプレイの絵の下側にあります。
 - ・「クローン」ボタン：2つの四角が重なった絵の四角いボタン、それぞれのディスプレイの絵の下側にあります。
- ・「プライマリ」ボタン (→ P.81) が有効になっているディスプレイをプライマリモニタと呼びます。
「クローン」ボタン (→ P.81) が有効になっているディスプレイをクローンモニタと呼びます。
有効の時は、ボタンが押されてへこんだ状態です。
- ・コマンドプロンプトをフルスクリーンで利用する場合、プライマリモニタに表示されません。

□ マルチモニタ機能

- 1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72) をご覧になり、設定してください。

■ Quadro FX 550、Quadro FX 1500 の場合

POINT

- ▶ [お使いのディスプレイ名] は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ [お使いのグラフィックスカード名]には搭載されているグラフィックスカード名が表示されます。
- ▶ 2台のディスプレイを接続し、初めて電源を入れたときに、1台目のディスプレイに「NVIDIA nView ウィザード」が表示される場合があります。この場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

□ クローン機能

- 1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「Quadro FX 550」タブまたは「Quadro FX 1500」タブをクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」ウィンドウの左側に、「ディスプレイメニュー」が表示されます。
- 4 「nView ディスプレイ設定」をクリックします。

POINT

- ▶ 「ディスプレイメニュー」の「nView ディスプレイ設定」は、2台のディスプレイを接続した場合のみ表示されます。
- 5 「nView」で「クローン」を選択し、「OK」をクリックします。
「デスクトップが再設定されました。この設定を保存しますか?」と表示されます。
 - 6 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
 - 7 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。

- 8 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72) をご覧になり、設定してください。

□ マルチモニタ機能

- 1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4 「画面のプロパティ」ウィンドウで、「OK」をクリックします。
- 5 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72) をご覧になり、設定してください。

□ スパン機能

- 1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「Quadro FX 550」タブまたは「Quadro FX 1500」タブをクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」ウィンドウの左側に、「ディスプレイメニュー」が表示されます。
- 4 「nView ディスプレイ設定」をクリックします。

POINT

- ▶ 「ディスプレイメニュー」の「nView ディスプレイ設定」は、2 台のディスプレイを接続した場合のみ表示されます。
- 5 「nView」で「水平スパン」または「垂直スパン」を選択します。
「水平スパン」: 2 つの画面を横置きで 1 枚の画面として使用します。
「垂直スパン」: 2 つの画面を縦置きで 1 枚の画面として使用します。
 - 6 「OK」をクリックします。
「デスクトップが再設定されました。この設定を保存しますか?」と表示されます。
 - 7 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
 - 8 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。

- 9** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.72) をご覧になり、設定してください。

2 音量の設定

スピーカーやヘッドホンの音量は、画面の音量つまみで調節します。
また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

重要

- ▶ スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

画面上の音量つまみで設定する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。
音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
 4. 「音量」タブをクリックします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。
「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。
 - 3 デスクトップの何も無いところをクリックします。
音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何も無いところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定について

■ 再生時の音量設定方法

- 1 通知領域の「音量」アイコンをダブルクリックします。
音量を設定するウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。

■ 録音時の音量設定方法

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
音量を設定するウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio rear input」または「Realtek HD Audio rear input」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 バランスや音量などを調節します。

POINT

- ▶ バランスや音量を設定しても再生時／録音時の音量が小さい、または大きい場合は、音量を設定するウィンドウでマイクボリュームを設定してください。なお、録音時と再生時でそれぞれ設定する必要があります。
 1. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
 2. 「マイクボリューム」の「トーン」をクリックします。
 3. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

■ 各機種の設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。

POINT

- ▶ 各項目で表示される名称や順番は OS により異なる場合があります。
- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio rear input」または「Realtek HD Audio rear output」を選択します。
 3. 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
 4. 「OK」をクリックします。
項目が表示されるようになります。

● 再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
マスタ音量	表示	ー	ワークステーション全体の再生音量
WAVE	表示	ー	Wave 音源の再生音量
SW シンセサイザ	表示	ー	本ワークステーション内蔵のソフトウェア MIDI の再生音量
CD プレーヤー	表示	ー	(表示されますが、音量調節できません)
ライン入力	表示	ー	ライン入力の再生音量
マイク	非表示	ミュート	マイク端子に接続したマイクの再生音量

● 録音時の音量設定

ご購入時、「録音コントロール」ウィンドウの「選択」は「マイク」に設定されています。

項目	ご購入時の表示の状態	設定する音量
ステレオミキサー	非表示	ステレオ再生音全体の録音音量
CD 音量	表示	(表示されますが、音量調節できません)
ライン入力	表示	ライン入力の録音音量
マイク	表示	マイク端子に接続したマイクの録音音量

3 通信

重要

- ▶ 通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからワークステーションを守るため、セキュリティ対策を実行してください（→ P.101）。

LAN について

LAN の設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ LAN を接続する

本ワークステーションには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

- 10BASE-T（IEEE 802.3 準拠）
- 100BASE-TX（IEEE 802.3u 準拠）
- 1000BASE-T（IEEE 802.3ab 準拠）

警告



- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでワークステーション本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
落雷の可能性がある場合は、あらかじめワークステーション本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
落雷による感電、火災の原因となります。

注意



- LAN コネクタに指などを入れしないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

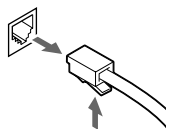
- 1 ワークステーション本体の電源を切ります（→『取扱説明書』）。
- 2 ワークステーション本体の LAN コネクタとネットワークを、LAN ケーブルで接続します。
コネクタの形を合わせて、まっすぐに差し込んでください。LAN コネクタについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」（→ P.12）をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワークを使用中に省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなったり、ソフトウェアの不具合が発生したりする場合があります。
その場合は、「機能」－「省電力の設定」（→ P.95）をご覧ください。

POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



コネクタの向きは機種により異なります。

4 ドライブ関連

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	全容量の約 50%	NTFS
D	全容量の約 50%	NTFS
E	CD-ROM 注ドライブ	CD-ROM 搭載時

注：カスタムメイドの場合は、選択したドライブ（スーパーマルチ）になります。

POINT

- ▶ ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。

DMA の設定

「デバイスマネージャ」で DMA の設定を変更することができます。

■ DMA 設定対応表

DMA 設定対応表をご覧になる前に、次の操作に従って「デバイスマネージャ」ウィンドウを「デバイス（接続別）」に変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「表示」メニュー→「デバイス（接続別）」の順にクリックします。
本ワークステーションのデバイスが接続別に表示されます。

●：ご購入時 DMA 設定 ー：増設不可

デバイス		プライマリ		セカンダリ	
		0	1	0	1
Intel(R) 82801GB Serial ATA Storage Controllers-27C0	SATA HDD	●	ー	ー	ー
Intel(R) 82801GB Ultra ATA Storage Controllers-27DF	CD/DVD	●	ー	ー	ー

■ DMA の設定方法

POINT

▶ Serial ATAのハードディスクを増設した場合は、各デバイスのDMA設定がOS標準に戻る場合があります。次の手順に従って、DMA 設定を変更してください。

- 1** 「スタート」 ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
- 2** 「ハードウェア」 タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3** 「表示メニュー」 → 「デバイス（接続別）」の順にクリックします。
- 4** 設定するデバイスの「プライマリ IDE チャンネル」、または「セカンダリ IDE チャンネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 5** 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャンネルのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
- 6** 「DMA の設定」の表を参照して設定を変更します。
- 7** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

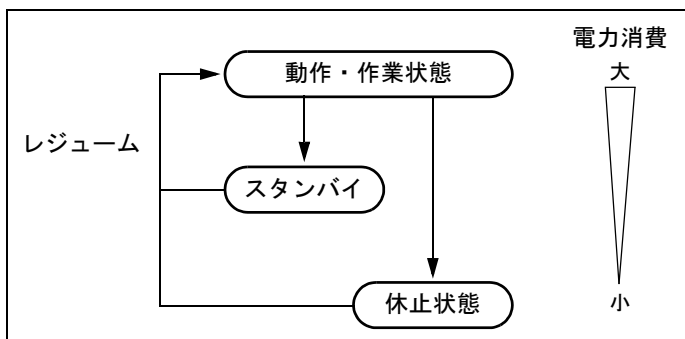
5 省電力

ご購入時は ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに設定されています。

ここでは、ACPI モードに関する注意事項と、スタンバイモードの変更方法 (→ P.98) を説明します。

スタンバイと休止状態

スタンバイまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



● スタンバイ

実行中のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してワークステーションの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプがオレンジ色に点灯します。休止状態よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

● 休止状態

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、スタンバイよりも中断/レジュームにかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで設定する必要があります。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。

- スタンバイ時や休止状態移行時、またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない、スタンバイまたは休止状態からレジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-Video などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT形式のファイルの再生中や音楽CDの再生中）
 - ・ CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD+R、DVD-RW、DVD+RW、DVD-R DL、DVD+R DL に書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ マウスの操作中
 - ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
 - ・ Open GL を使用するソフトウェアを実行中
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、「BIOS」－「メニュー詳細」（→ P.134）をご覧ください。
- 高度な省電力モード（ACPI S3）をサポートすることにより、ご購入時の状態では、スタンバイ時の消費電力を数ワットにすることを実現しています。

事前に、接続する周辺機器が ACPI に対応しているか、また、ACPI S3 / ACPI S1 モード対応かを周辺機器のメーカーに確認してください。従来の周辺機器（プリンタ、USB 機器等）、または ACPI モードに対応していない周辺機器を接続すると、次の状態になる場合があります。

 - ・ 周辺機器が使用できない
 - ・ スタンバイ状態からレジュームできない
 - ・ 本体がスタンバイ状態から復帰した後に、正常に動作しない

この状態になった場合は、「ACPI のスタンバイモードを設定する」（→ P.98）をご覧になり、スタンバイモードを高度（ACPI S3）から標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。また、内蔵ドライブユニットについても、ACPI S3 モードに対応していない場合があります。同様に、スタンバイモードを標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できる周辺機器もあります。詳細は周辺機器のメーカーに確認してください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。

- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能 (Wake up on LAN 機能) を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本ワークステーションがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
 1. 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウを表示します (→ P.95)。
 2. 「電源設定」 タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。
- スタンバイまたは休止状態へ移行させるときは、手動 (電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.96)、などの操作) ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまうことを回避できます。
 - ・「電源設定」 タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでの時間 (例えば「30 分後」) を設定します。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやソフトウェアによっては、不具合 (スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど) が発生することがあります。
 - ・ TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、手動 (電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.96)、などの操作) によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合
 - ・ ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動 (電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.96)、などの操作) によりスタンバイ状態に移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
[ファイル名] ～～
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか?」
- 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイおよびシステム休止状態への移行はできません。
- カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合は、ACPI のスタンバイモードとして「標準 (ACPI S1)」をサポートしていません。
 - ・ ご購入時には、「高度 (ACPI S3)」に設定されています。このまま設定を変更せずにお使いください。
 - ・ 接続する周辺機器が ACPI S3 モードに対応しているかを周辺機器のメーカーに確認してください。
ACPI S3 モードに対応している周辺機器のみご使用いただけます。
 - ・ 接続する周辺機器が ACPI S1 モードにのみ対応している場合、本ワークステーションをスタンバイや休止状態にしないでください。

■ スタンバイ時の注意事項

- 電源ボタンなどで本ワークステーションをスタンバイ状態に移行させても、まれにすぐにレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイ状態に移行させてください。
- TCP/IPの設定でDHCPが有効の場合、スタンバイ状態移行時にDHCPサーバーから割り当てられたIPアドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることがあります。
この場合は、DHCPサーバーのIPアドレスのリース期間を延長するか、またはDHCPの使用を中止し固定IPをご使用ください。
- スタンバイ状態に移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。ソフトウェアをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイ状態に移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイ状態に移行できない状態を示します。スタンバイ状態に移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。

■ 休止状態の注意事項

- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- プリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

省電力の設定

■ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの表示

本ワークステーションの電源を管理することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。
- 2 「電源オプション」をクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

■ 設定を変更する

お使用の状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

□ 「電源設定」タブ

本ワークステーションの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイ状態に移行するまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。

「休止状態」タブで休止状態を有効にした場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときの、ワークステーション本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています）。

次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの状態を設定できます。
- 「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」
：スタンバイ状態からレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

□「休止状態」タブ

本ワークステーションを終了する前にメモリの内容をすべてハードディスクに保存するかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」をチェックすると、「詳細設定」タブの「電源ボタン」の項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイまたは休止状態にする

■「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使用してスタンバイ、または休止状態にする場合は、次のように操作してください。

POINT

- ▶ 「コンピュータの電源を切る」ウィンドウに「休止状態」を使用可能にするには、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ（→P.95）で、休止状態を有効にしてください。

- 1** 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
- 2** 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

■ スタンバイおよび休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイおよび休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外で標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイ状態からレジュームさせると、OS の仕様により画面が表示されない場合があります。その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態でも一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スタンバイ状態に移行します。

レジューム要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)
電源ボタンを押す ^{注1}	○	○	○
PS/2 キーボードのキーを押す、 PS/2 マウスを動かす ^{注2}	○	×	×
USB キーボードのキーを押す、 USB マウスを動かす ^{注3}	○	○	○
タイマでレジューム時刻指定する ^{注4}	○	○	○
LAN 着信 ^{注5}	○	○	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号) ^{注6}	○	×	×
PCI 拡張カード (PME# 信号) 経由の着信 ^{注7}	○	○	○

注1: 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ「詳細設定」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスタンバイ状態からレジュームします。

注2: 「デバイスマネージャ」- 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティで「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

注3: 「デバイスマネージャ」- 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

注4: 「タスク」を使用した場合、タイマでレジュームさせることができます。

注5: 「デバイスマネージャ」- 「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

注6: 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

注7: PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.3 規格に準拠) を搭載した場合、着信によるレジュームをさせることができます。

ACPI のスタンバイモードを設定する

■ 概要

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 高度 (ACPI S3) …メモリ以外の装置の動作を停止します。標準 (ACPI S1) と比較し、省電力に優れる一方でレジュームには時間がかかります。
- 標準 (ACPI S1) …CPU の動作を停止します。

ご購入時には、高度 (ACPI S3) に設定されています。スタンバイモードを変更する方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ 増設する周辺機器は高度 (ACPI S3) に対応している必要があります。対応していない周辺機器を接続する場合は、標準 (ACPI S1) に切り替えてお使いください。

■ スタンバイモードを高度から標準に変更する

- 1 BIOS セットアップで、スタンバイモードを標準 (ACPI S1) に設定します。BIOS セットアップについては、「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」(→ P.131) をご覧ください。
「Power」－「ACPI Sleep Mode」: 「S1」

POINT

- ▶ この操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで、再設定してください (→ P.95)。

■ スタンバイモードを標準から高度に変更する

標準から高度に変更するには、BIOS セットアップの設定を元に戻してください。また、設定を変更した後は、リカバリが必要となります。手順に従って操作してください。

- 1 BIOS セットアップで、次の設定を変更します。BIOS セットアップについては、「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」(→ P.131) をご覧ください。
「Power」－「ACPI Sleep Mode」: 「S3」
- 2 変更後、リカバリを実行します (→ 『取扱説明書』)。

6 その他

Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください (→ P.125)。

■ PMAN の機能

本ワークステーションで使用できる機能は、次のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダースケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール) (別売) の「運用設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wakeup on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入/切断 (自動シャットダウン含む) を行うことができます。グループ指定 (運用単位) により複数のワークステーションを一括して電源投入/切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール) (別売) の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時 (シャットダウン時) のイベントごとにユーザープロセス (プログラム、コマンドなど) を指定できます。イベント発生とソフトウェアを連携させることが可能です。たとえば、通常停止 (電源切断) のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなソフトウェアの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ Windows XP SP2 を適用している場合、Windows ファイアウォール機能が有効となる為、コンソールからの要求が受け取れなくなります。Windows ファイアウォールの例外リストの登録を行なう必要があります。
詳細は、富士通ホームページより「Windows XP SP2 留意事項」 - 「Power MANagement for Windows V1.1」 (<http://software.fujitsu.com/jp/products/syskou/winxp/sp2/r293c1641.html>) をご覧ください。
- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。

- ▶ 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」－「詳細設定」タブの「電源ボタン」設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にソフトウェアの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- ▶ DHCPについて（リモート電源制御機能使用時のみ）
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第5章

セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	102
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	104
3 不正使用からのセキュリティ	109
4 ワークステーションの盗難防止	112
5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ	113

1 セキュリティについて

コンピュータの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本ワークステーションではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

重要

- ▶ 当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。セキュリティ対策は、本ワークステーションを使用している方が責任をもって行ってください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。ワークステーションを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

■ コンピュータウイルス

コンピュータにトラブルをひき起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてワークステーションに感染することにより、ワークステーションのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

■ 情報の漏えい

ネットワークなどを通してコンピュータに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり、破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したワークステーションから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- ▶ 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

■ 不正使用

使用する権限のないコンピュータを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■ 盗難

不正にコンピュータが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

コンピュータのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」－「トラブルに備えて」(→ P.178)、および「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.106)をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどの普及に伴い、コンピュータウイルスへの感染やワークステーション内の情報が漏えいする危険性が高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているワークステーションを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス対策

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、「Norton AntiVirus」(→ P.104) を使用したり、「Windows Update」(→ P.106) を実行したり対策を取ってください。

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてワークステーションに感染し、データを破壊したりワークステーションを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したワークステーションを使用することにより、メールソフトに登録されているアドレスや保持しているデータに記録されているアドレス宛てに勝手にウイルスが配信され、ウイルスを広めてしまうこともあります。

本ワークステーションには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「Norton AntiVirus」が添付されています。「Norton AntiVirus」は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染をチェックすることができます。

■ Norton AntiVirus

「Norton AntiVirus」は「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」(→ P.116) をご覧になり、必要に応じてインストールしてください。また、「Norton AntiVirus」を使用する場合は、ウイルス定義ファイルの更新をお勧めします。

更新方法については、「ウイルス定義ファイルを更新する (LiveUpdate)」(→ P.105) をご覧ください。

使用方法や設定については、ヘルプをご覧ください。

□ 注意事項

- 「Norton AntiVirus」を起動していると、ソフトウェアが正常にインストールされなかったり、ご使用のソフトウェアによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「Norton AntiVirus」を一時的に使用不可にしてください。ただしインストールが終了した後は、使用可に戻すのを忘れないでください。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」の順にクリックします。「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」→「Norton AntiVirus」の順にクリックし、「Auto-Protect をオンにする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。
 - ・「Norton AntiVirus」のアイコンが通知領域に表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「Auto-Protect を無効にする」をクリックします。

- 「Norton AntiVirus」でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 「Norton AntiVirus」は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の「Norton AntiVirus」をご購入ください。
- 電子メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、コンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。また、ワークステーションのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。

□ ウイルス定義ファイルを更新する（LiveUpdate）

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って行ってください。
 - ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。
 - ▶ 「Norton AntiVirus」の自動 LiveUpdate を「オン」に設定しておく、インターネットに接続したときに最新のウイルス定義ファイルに自動更新することができます。
- 手動で更新する
 1. 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」の順にクリックし、画面左上の「LiveUpdate」ボタンをクリックします。
 2. 「次へ」ボタンをクリックします。
更新ファイルがあるかどうか検索されます。
更新ファイルがない場合は、「完了」をクリックしてウィンドウを閉じます。
 3. 「次へ」ボタンをクリックします。
更新ファイルのダウンロードとインストールが始まります。
 4. 「完了」をクリックします。

POINT

- ▶ 更新を有効にするために再起動が必要な場合は、Windows を再起動してください。
- 自動で更新する
自動でウイルス定義ファイルを更新するには、「Norton AntiVirus」の自動 LiveUpdate を「オン」に設定する必要があります。
 1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」をクリックします。
「Norton AntiVirus」が起動します。
 2. 「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」→「Norton AntiVirus」の順にクリックします。
「Norton AntiVirus オプション」ウィンドウが表示されます。
 3. 「インターネット」の「LiveUpdate」をクリックします。
 4. 「自動 LiveUpdate をオンにする」にチェックを付けて「OK」をクリックします。
自動 LiveUpdate のオンとオフが切り替わります。

□ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのワークステーションに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのワークステーションに適用してください。

Windows では、「Windows Update」で Windows を最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

Office 製品についても、マイクロソフト社のホームページから、「Office のアップデート」を実行することにより、最新の状態に更新できます。

■ Windows Update

POINT

- ▶ 「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。
- ▶ インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。ご購入時の設定は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。「Windows ファイアウォール」は、有効にして使用することをお勧めします。
- ▶ 「Windows Update」はシステム管理者の指示に従って行ってください。システム管理者は、次の点にご注意ください。
 - ・「優先度の高い更新プログラム」については、適用されることをお勧めします。
 - ・ハードウェア用の更新プログラムは適用しないでください。ただし、お客さまが追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、「Windows Update」を自動的に行うように設定をすることができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、「優先度の高い更新プログラム」を自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。
- ▶ 「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のワークステーションの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ▶ 「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

POINT

- ▶ WindowsやOffice製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを一度に入手できる「Microsoft Update」を利用することもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをクリックし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

- 2 「カスタム」をクリックします。

ワークステーションの状態を診断し、更新情報を取得します。

更新情報のリストが表示されます。

- 3 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。

通常は、「優先度の高い更新プログラム」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

- 4 「更新プログラムの確認とインストール」をクリックします。

POINT

- ▶ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

- 5 「更新プログラムのインストール」をクリックします。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

セキュリティセンター

「セキュリティセンター」を使うと、Windowsのセキュリティの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

■ セキュリティセンターの機能

□ セキュリティの状態を監視して危険を知らせる

セキュリティセンターは、セキュリティ対策上で重要な次の3つのポイントをいつもチェックしています。

- ワークステーションがファイアウォールで守られている
- 「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」が自動的に適用されるように設定されている
- 最新のウイルス対策ソフトを実行している

例えば、ウイルス対策ソフトを導入していなかったり、ウイルス定義ファイルが古いままで最新のコンピュータウイルスに対応できない状態だったりした場合など何か問題があるときに、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新のセキュリティ対策を取るよう心がけてください。

□ セキュリティの設定／確認を手軽に行う

セキュリティセンターでは、次の設定を行うことができます。

- インターネットオプション
「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。
- 「Windows Update」の自動更新
インターネット利用中に「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」があるかどうかを定期的に確認し、お使いのワークステーションに自動的にインストールします。
- Windows ファイアウォール
ネットワーク経由で悪意のある第三者や不正なプログラムが侵入するのを防ぎます。

ファイアウォール

ワークステーションを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんされることがあります。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作って、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP SP2 では、「Windows ファイアウォール」が標準で搭載されています。

「Windows ファイアウォール」については、Windows のヘルプをご覧ください。

通信データの暗号化

ネットワーク経由してデータをやり取りしている場合、ネットワーク上で情報の漏えいを招くことがあります。重要なデータは、あらかじめ暗号化するなどして保護することが大切です。

Windows XP Professional には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。暗号化機能の1つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」があります。

TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずデータ暗号化させてネットワークを経由させることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

ワークステーションを使用する権限のない人が不正にワークステーションを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からワークステーションを守ることが必要になってきています。

ここでは、本ワークステーションで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、ワークステーションの安全性も高まります。

重要

- ▶ ワークステーションの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。
また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで1台のワークステーションを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。ワークステーションを使用するユーザーアカウントと管理者権限を持ったアカウントを分ければ、ファイルのアクセス権を管理したり、不正なプログラムのインストールや起動を制限できるため、ワークステーションの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows では、ファイルシステムとして NTFS を使用しています。NTFS では、次のことが可能です。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。

- フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。
アクセス権を設定したり、暗号化したりすることにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。
詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

ワークステーション起動時や BIOS セットアップ起動時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、ワークステーションの設定が変更できなくなるなどの制限がかかります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→P.152)をご覧ください。

また、ワークステーションのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておく、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

セキュリティチップ

セキュリティチップはワークステーションの状態を確認すると共に、ユーザーごとの鍵を生成し保護管理する機能を持ちます。この機能を使うことで、より強固なファイル暗号化やユーザー認証を行うことができます。

詳しくは、『CELSIUS マニュアル』内の『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

スマートカードリーダー/ライタ

ワークステーションや Windows の起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1つずつ設定できます。

ワークステーションを使用する場合は、ワークステーション本体にスマートカードをセットし、PIN (個人認証番号) を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証よりも安全に使用できます。

詳しくは、『CELSIUS マニュアル』内の『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』にあるマニュアルをご覧ください。

Portshutter

重要

▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。

USB ポートや CD-ROM ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。Portshutter を使うことにより、ワークステーションからの情報漏洩やワークステーションへの不正なプログラムの導入を防止することができます。

USB ポートを無効にする場合、USB 機器ごとに有効・無効の設定が可能です。詳しくは、添付の「ドライバズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファ・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。

詳しくは、「ハードウェア」－「CPU について」(→ P.44) をご覧ください。

4 ワークステーションの盗難防止

ワークステーションの盗難という危険があります。ワークステーションを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、ワークステーション自体にも盗難防止用の機能が備えられています。

本ワークステーションには、次の機能があります。

- 「本体カバーキー(カスタムメイドの「本体カバーキー追加」を選択している場合)」(→ P.112)
- 「市販の鍵」(→ P.112)
- 「盗難防止用ロック取り付け穴」(→ P.112)

本体カバーキー、市販の鍵を使用すると、本体カバーの開閉を制限できるため、ハードディスクなどの装置の盗難の危険性が減少します。これらの鍵の施錠方法については、「ハードウェア」－「筐体のセキュリティ」(→ P.49)をご覧ください。

また、本体カバーが取り外されたかどうかを、ワークステーション起動時に検出する機能を設定できます。詳しくは、「BIOS」(→ P.129)をご覧ください。

□ 本体カバーキー (カスタムメイドの「本体カバーキー追加」を選択している場合)

添付の本体カバーキーで、本体カバーを施錠できます。

重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

□ 市販の鍵

ワークステーション本体背面のセキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けることができます。

□ 盗難防止用ロック取り付け穴

ワークステーション本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。ケーブルの端を机や柱などに取り付けることで、ワークステーション本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.12)をご覧ください。

POINT

- ▶ 市販の鍵または盗難防止用ケーブルの鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、コンピュータは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピュータに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、ワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本ワークステーションには、ワークステーションの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」(→P.116)をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ + 0 データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁氣的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し、消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://segroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/)をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

第6章

ソフトウェア

6

ソフトウェアについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧	116
2 ドライバ	127

1 ソフトウェア一覧

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- ▶ 選択したカスタムメイドによっては、この他にソフトウェアが添付されることもあります。
- ▶ 添付されているソフトウェアは「ドライバズディスク」、「リカバリディスク」などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。
- ▶ 一部のソフトウェアはアンインストールできない場合があります。

◎：プレインストール（添付あり） ○：プレインストール（添付なし） △：添付のみ

	名称	Windows XP Professional
OS	Microsoft Windows XP Professional (SP2) (→ P.117)	◎
	OS 追加プログラム (→ P.117)	○
セキュリティ	Norton AntiVirus (→ P.118)	◎
	Portshutter (→ P.118)	△
	SMARTACCESS/Basic (→ P.118)	△
	ハードディスクデータ消去 (→ P.119)	△
CD/DVD	DVD-RAM ドライバソフト (→ P.120) 注	△
	Roxio DigitalMedia (→ P.121) 注	◎
トラブル予防／ 診断	Easy Backup (→ P.121)	△
	FMV 診断 (→ P.122)	◎
	UpdateAdvisor (本体装置) (→ P.122)	◎
	FM Advisor (→ P.123)	◎
その他	Adobe Reader (→ P.123)	◎
	FM-Menu (→ P.123)	△
	FM 拡大ツール (→ P.124)	△
	FM キーガード (→ P.124)	△
	PC 乗換ガイド (→ P.124)	△
	Power MANagement for Windows (→ P.125)	△

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください。

注：スーパーマルチドライブを搭載している場合

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

■ Microsoft Windows XP Professional (SP2)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプをご覧ください。また、Windows XP Professional には次のソフトウェアが含まれています。

- Internet Explorer 6.0 SP2 (World Wide Web ブラウザ)
- Microsoft IME スタンダード 2002 (日本語入力ユーティリティ)
- DirectX9.0c (対応ソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現)

□ SP2 のインストール

SP2 には、Windows XP に対する新しい修正が含まれています。インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
c:\sp\sp2\wpxsp2.exe
「Windows XP Service Pack2 セットアップ ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「追加使用許諾契約書」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows XP のバージョン情報は、次の操作で見ることができます。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ OS 追加プログラム

□ 概要

出荷時のOSに適用済みのSP以降に提供されたセキュリティの問題を解決する修正プログラムがインストールされています。

重要

- ▶ 「プログラムの追加と削除」で、「更新プログラムの表示」にチェックを付けたときに表示されるモジュールを削除しないでください。

■ Norton AntiVirus

□ 概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します。詳しくは、「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.104) をご覧ください。

ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になります。詳細については「トラブルシューティング」－「お問い合わせ先」(→ P.203) をご覧ください。

□ インストール方法

インストール前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

ご購入時、およびリカバリ後にセットアップを終了すると、デスクトップ上に「NortonAntiVirus2006 のセットアップ」アイコンが表示されます。

「NortonAntiVirus2006 のセットアップ」アイコンをダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールを実行してください。

また、誤って「Norton AntiVirus」を削除した場合、または再度インストールが必要になった場合は、「ドライバーズディスク」内の「app¥nav¥manual¥nv12Oem.pdf」をご覧ください。

POINT

- ▶ 「Microsoft Windows インストーラをコンピュータにインストールする必要があります。」と表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

■ Portshutter

□ 概要

USB ポートや CD/DVD ドライブなどの接続ポートを無効にするソフトウェアです。不要な機器を接続させないことにより、情報漏洩を防止できます。

□ インストール方法

インストール手順については、「ドライバーズディスク」内の「¥app¥portshut¥manual¥操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

■ SMARTACCESS/Basic

□ 概要

セキュリティチップやスマートカードを使用するためのソフトウェアです。

□ 対象機種

セキュリティチップを搭載している機種、スマートカードリーダー/ライタを搭載している機種

□ インストール方法

インストール方法については『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「SMARTACCESS/Basic」を手動でインストールする必要があります。

■ ハードディスクデータ消去

□ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」(→ P.113)をご覧ください。

□ 注意事項

- 本ツールでは、本ワークステーションに内蔵されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- 1回の操作でデータを消去できるハードディスクは1つです。複数のハードディスクを消去する場合は、システムを再起動してからハードディスクデータ消去を実行する必要があります。
- 「リカバリディスク」を起動してから24時間経つと、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「リカバリディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してからハードディスクデータ消去を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中にリカバリディスクを取り出さないでください。処理が継続できなくなる場合があります。

□ データ消去方法

次のものを用意してください。

- リカバリディスク1

- 1 「リカバリディスク 1」をセットします。**
- 2 本ワークステーションを再起動します。**
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。**
メニューが表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴやWindowsの起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。

- 4 CD/DVDドライブを選択して【Enter】キーを押します。**
「使用許諾」ウィンドウが表示されます。
- 5 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックします。**
「リカバリメニュー」ウィンドウが表示されます。

- 6** 「メニュー」から「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
- 7** 注意事項をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「データを消去するハードディスクを1台選択してください。」と表示されます。
- 8** データを消去するハードディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックします。
「データを消去する方式を選択してください。」と表示されます。
- 9** 消去する方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されます。
- 10** エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしいですか?」と表示されます。
- 11** 「開始」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか?」と表示されます。
- 12** 「OK」をクリックします。
しばらくすると、「電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。」と表示されます。
- 13** 電源ボタンを4秒以上押して電源を切ります。

以上でハードディスクデータ消去は終了です。

■ DVD-RAM ドライバソフト

□ 概要

ハードディスクとほぼ同様の操作で、データ書き込みを可能にする DVD-RAM を使うことができます。

DVD-RAM の保存形式は、FAT 形式 (FAT32) または UDF 形式 (UDF1.5 および UDF2.0) を選択することができます。

ただし、パケットライト機能を使用することはできません。

□ 対象機種

スーパーマルチドライブを搭載している機種

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。なお、リカバリを実行した場合、「DVD ドライバソフト」を手動でインストールする必要があります。

- 1** 「DVD-RAM ドライバソフト」CD-ROM をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVDドライブ]:%dvdram%xp%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Roxio DigitalMedia

□ 概要

ワークステーションのデータや音楽、映像データを CD や DVD に保存するためのソフトウェアです。

使用方法については、ソフトウェア内のヘルプをご覧ください。

POINT

- ▶ DVD+R DLにデータ書き込みを行う場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約 512MB)が書き込まれます。このため、最大書き込み容量は約 7.99GB となります。

□ 対象機種

スーパーマルチドライブを搭載している機種

□ インストール方法

リカバリを実行した場合、「Roxio DigitalMedia」を手動でインストールする必要があります。

1 「Roxio DigitalMedia」CD-ROM をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVDドライブ]:%roxio%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Easy Backup

□ 概要

お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥easybup¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

使用方法については、ヘルプまたはソフトウェア説明書をご覧ください。

■ FMV 診断

□ 概要

ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥shindan¥fmv1810¥disk1¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

🔍 POINT

- ▶ インストール後、「スタート」メニューに「FMV 診断」が登録されない場合があります。この場合は、「C:¥fjuty¥fmvdiag¥fmvdiag.exe」を直接起動するか、ショートカットを作成してください。

■ UpdateAdvisor (本体装置)

□ 概要

適用すべき修正データをダウンロードして適用することができます。

🔍 POINT

- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、Azby Enterpriseの会員ID、またはSupportDesk サービス契約ユーザー等のユーザー IDが必要です。Azby Enterprise および SupportDesk については、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/>) をご覧ください。
- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、インターネットに接続し、「UpdateAdvisor (本体装置)」を最新バージョンにアップデートする必要があります。起動時に、「インターネットに接続し、インストールされている「UpdateAdvisor (本体装置)」が最新バージョンであるか確認を行いますか？」というメッセージが表示されるので、「はい」をクリックしてください。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥advisor¥xp¥setup.exe
(「FM Advisor」が同時にインストールされます。)

この後は、メッセージに従って操作します。

■ FM Advisor

□ 概要

本ワークステーションの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。

□ インストール方法

「UpdateAdvisor (本体装置)」(→ P.122) をインストールしてください。「FM Advisor」も同時にインストールされます。

■ Adobe Reader

□ 概要

PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

1 「ドライバズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥adobe¥adberdr705_jpn_full.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ FM-Menu

□ 概要

ボタン式メニューから簡単にソフトウェアを起動できます。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥fmmenu¥xp¥setup. exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ FM 拡大ツール

□ 概要

画面に表示される文字やアイコン、マウスポインタなどの大きさを拡大します。

□ インストール方法

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥elook¥setup. exe

このあとはメッセージに従って操作します。

■ FM キーガード

□ 概要

特定のキー入力を抑止する機能と、プログラムメニューに表示するメニューの抑止機能を追加するソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥fmkguard¥setup. exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ PC 乗換ガイド

□ 概要

今までお使いになっていたパソコンおよびワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行するためのソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD/DVDドライブ]: %app%pcmigrat%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作してください。

■ Power MANagement for Windows

□ 概要

本ワークステーションの電源を制御できます (→ P.99)。

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]: %app%pman%setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

アンインストール方法

■ 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- 「プログラムの追加と削除」機能を使用する
「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

重要

- ▶ 添付の「ドライバズディスク」をセットすると「ドライバズディスク検索」ツールが起動します。「ドライバズディスク検索」ツールでお使いの OS を選択すると、使用できるドライバの一覧が表示されます。機種名が選択できる場合は、お使いの機種名も選択してください。
誤ったソフトウェアをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ず OS や機種名を選択し、正しいソフトウェアを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。ただし、ドライバズディスクの「Update」フォルダ内に最新ドライバが格納されている場合がありますので、必要に応じてインストールしてください。

リカバリ後はお使いの機器および選択したカスタムメイドオプションにより、ドライバのインストールが必要です。

- インストールが必要なドライバ
 - ・グラフィックスドライバ
 - ・セキュリティチップ
 - ・スマートカードリーダー/ライター

その他のドライバをインストールする必要はありません。ただし、ドライバを誤って削除したり、またなんらかの理由により破損した場合、ドライバのインストールが必要になります。インストールについては、機能別のマニュアル、または各ドライバのフォルダ内にある「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。

□ 注意事項

- 各ドライバの最新版は富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) のドライバダウンロードページに掲載されています。

Memo

第 7 章

BIOS

7

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。

1	BIOS セットアップとは	130
2	BIOS セットアップの操作のしかた	131
3	メニュー詳細	134
4	BIOS のパスワード機能を使う	152
5	セキュリティ機能を使うには	156
6	BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧 ..	161

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップは、メモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、必要最小限のことは設定されています。次の場合に設定の変更が必要になります。

- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- リソースの設定を変更するとき
- 起動時の自己診断（POST）に BIOS セットアップを促すメッセージが表示されたとき
- ACPI スタンバイモードを変更するとき
- ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能の設定を変更するとき

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。
BIOS セットアップを正しく設定しても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は、バッテリーが消耗し、CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性が考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断（POST）
本ワークステーションの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST : Power On Self Test）といいます。

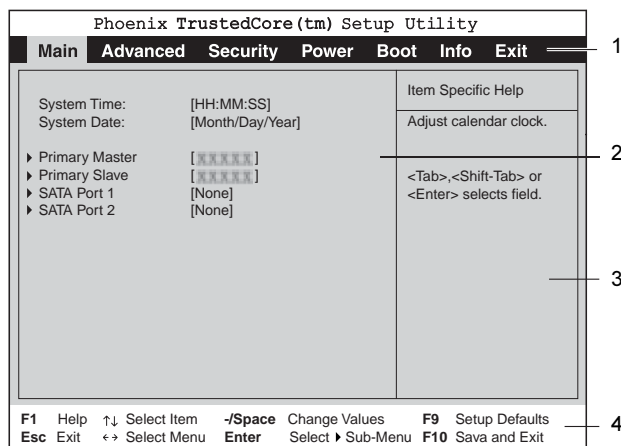
2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 本ワークステーションを再起動します。
- 3 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください (→ P.155)。
BIOS セットアップ画面が表示されます。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後にキーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F2】キーを数回押してください。
また、BIOS セットアップの「Boot」－「Quick Boot」を「Disabled」に設定することで、「FUJITSU」ロゴを表示できるようになるディスプレイもあります。



機種や装置により、表示が異なる場合があります。

1. メニューバー
メニューの名称が表示されます。
2. 設定フィールド
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
3. ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。
4. キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
[F1] キー	BIOS セットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、 [Esc] キーを押します。
[↑] [↓] キー	設定する項目にカーソルを移動します。
[←] [Space] キー	各項目の設定値を変更します。
[F9] キー	標準設定値が読み込まれます。
[←] [→] キー	メニューバーからメニューを選択します。
[Esc] キー	「Exit」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
[Enter] キー	次のことを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・▶が付いている項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューが表示されます。 ・設定値にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。 ・時刻や日付の設定時に時、分、秒または月、日、年の間でカーソルを移動します。
[F10] キー	変更した設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
[F11] キー	記録されているイベントログが表示されます。
[Tab] キー	時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。

設定値を変更する

- 1** **[←]** **[→]** キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2** **[↑]** **[↓]** キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
▶の付いている項目にカーソルを合わせ、**[Enter]** キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3** **[←]** **[Space]** キーを押して、設定を変更します。
さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。
サブメニューを表示していた場合は、**[Esc]** キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 設定値を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておいてください。

BIOS セットアップを終了する

- 1** 「Exit」メニューを表示します。
【Esc】キーまたは【←】【→】キーを押してください。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して終了方法を選び、【Enter】キーを押します。
終了方法は、「Exit メニュー」（→ P.151）をご覧ください。
- 3** 【←】【→】キーを押して「Yes」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

Boot Menu を使用する

どのデバイスから起動するかを選択します。

- 1** 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2** 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
Boot Menu 画面が表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーを押して起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。
選択されたデバイスが接続されていない場合は、次のデバイスから起動します。

POINT

- ▶ Boot Menu を終了する場合は、【Esc】キーを押してください。
- ▶ Boot Menu 画面から BIOS セットアップを起動する場合は、< Enter BIOS Setup > を選択し、【Enter】キーを押してください。

3 メニュー詳細

BIOS セットアップの個々のメニューを説明します。

重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

Main メニュー

Main メニューでは、デバイスや日時の設定などを行います。

■ 設定項目の詳細

System Time

24 時間単位で時刻を設定します。キーボードから数値を入力します。【Enter】キーを押すと、「時：分：秒」の順にカーソルが移動します。

- ・ 00:00:00 ~ 23:59:59

System Date

年月日を設定します。キーボードから数値を入力します。【Enter】キーを押すと、「月／日／年」の順にカーソルが移動します。

- ・ 01/01/1981 ~ 12/31/2099

POINT

- ▶ 「System Time」、「System Date」は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。

Primary Master/Slave, SATA Port 1/2

サブメニューを使用して、パラレル ATA コネクタや Serial ATA コネクタに接続されているデバイスの情報を表示します。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

POINT

- ▶ 接続されている IDE デバイスと、各メニューとの対応は、次のとおりです。
 - ・ Primary Master : IDE コネクタに接続されたマスターデバイス
 - ・ Primary Slave : IDE コネクタに接続されたスレーブデバイス
 - ・ SATA Port 1 : Serial ATA コネクタ 1
 - ・ SATA Port 2 : Serial ATA コネクタ 2

- **Type**…IDE デバイスのタイプを設定します。
 - ・ **Auto (初期値)** : 本ワークステーションが IDE/ATA デバイスのタイプを自動的に設定します。
 - ・ **None** : IDE/ATA デバイスを使わない場合に選択します。「None」に設定すると、「Total Sectors」、「Maximum Capacity」、「Transfer Mode」、「Ultra DMA Mode」は表示されません。

POINT

- ▶ タイプの設定を変更する場合は、【Space】キーで選択してください。
 - ▶ 通常は「Auto」の設定でお使いください。
- **Total Sectors**…ハードディスクドライブが接続されている場合に、ハードディスクドライブのセクタ数が表示されます。
 - **Maximum Capacity**…ハードディスクドライブが接続されている場合に、ハードディスクドライブの最大容量が表示されます。

POINT

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、1MB=1000²byte 換算によるものです。
- **Transfer Mode**…デバイスホスト間のデータ転送モードが表示されます。
 - ・ Standard, Fast PIO 1, Fast PIO 2, Fast PIO 3, Fast PIO 4, FPIO 3 / DMA 1, FPIO 4 / DMA 2
 - **Ultra DMA Mode**…ウルトラ DMA の転送モードが表示されます。
 - ・ Disabled, Mode 0, Mode 1, Mode 2, Mode 3, Mode 4, Mode 5

Advanced メニュー

Advanced メニューでは、メインボードに搭載している各種インターフェースなどに関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ Serial/Parallel Port Configurations

サブメニューを使って、シリアル、パラレルポートの設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- Serial Port 1…シリアルポート 1 の I/O ポートアドレス、割り込み番号を設定します。
 - ・ Disabled : シリアルポート 1 を無効にして、リソースを解放します。
 - ・ Enabled(初期値) : シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスと割り込み番号を設定します。

POINT

- ▶ 「Disabled」に設定すると、デバイスマネージャのデバイスから見えなくなります。
 - ▶ Windows XP でリソースを解放するには、デバイスマネージャで使用不可または無効にしてください。
- ・ Base I/O, IRQ : 「Serial Port 1」を「Enabled」に設定した場合には表示されます。シリアルポート 1 の I/O アドレスと割り込み番号を設定します。
 - ・ 3F8, IRQ4 (初期値)、2F8, IRQ3、3E8, IRQ4、2E8, IRQ3
 - Serial Port 2…シリアルポート 2 の I/O ポートアドレス、割り込み番号を設定します。
 - ・ Disabled : シリアルポート 2 を無効にして、リソースを解放します。
 - ・ Enabled(初期値) : シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスと割り込み番号を設定します。

POINT

- ▶ 「Disabled」に設定すると、デバイスマネージャのデバイスから見えなくなります。
 - ▶ Windows XP でリソースを解放するには、デバイスマネージャで使用不可または無効にしてください。
- ・ Base I/O, IRQ : 「Serial Port 2」を「Enabled」に設定した場合には表示されます。シリアルポート 2 の I/O アドレスと割り込み番号を設定します。
 - ・ 3F8, IRQ4、2F8, IRQ3 (初期値)、3E8, IRQ4、2E8, IRQ3
 - Parallel Port…パラレルポートの I/O ポートアドレス、割り込み番号を設定します。
 - ・ Disabled : パラレルポートを無効にして、リソースを解放します。
 - ・ Enabled (初期値) : パラレルポートの I/O ポートアドレスと割り込み番号を設定します。

POINT

- ▶ 「Disabled」に設定すると、デバイスマネージャのデバイスから見えなくなります。
 - ▶ Windows XP でリソースを解放するには、デバイスマネージャで使用不可または無効にしてください。
- ・ Mode…「Parallel Port」を「Enabled」に設定したときに表示されます。パラレルポートの動作モードを設定します。
 - ・ Bi-directional : 双方向モードを使う周辺機器を接続するときに選択します。
 - ・ EPP : EPP 規格の周辺機器を接続するときに選択します。
 - ・ ECP (初期値) : ECP 規格の周辺機器を接続するときに選択します。

- Base I/O, IRQ : 「Parallel Port」を「Enabled」に設定したときに表示されます。パラレルポートのI/Oポートアドレスを設定します。「Mode」で「EPP」に設定した場合は、「3BC, IRQ7」を選択できません。
 - 278, IRQ5、378, IRQ7（初期値）、3BC, IRQ7
- DMA Channel : 「Mode」を「ECP」に設定したときに表示されます。ECP 規格の周辺機器を接続する場合に使う DMA チャンネルを設定します。
 - DMA 1（初期値）、DMA 3

□ Keyboard/Mouse Features

サブメニューを使って、キーボード/マウスに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- NumLock…起動時に、キーボードのテンキーをNumLock状態にするかどうかを設定します。NumLock 状態にすると、テンキーから数字を入力できます。
 - On（初期値）：キーボードを NumLock 状態にします。
 - Off：キーボードを NumLock 状態にしません。

POINT

- ▶ Windows XP をお使いの場合、電源オンすると前回電源オフしたときに OS が記録した NumLock 状態に戻ります。

□ Internal Devices Configurations

サブメニューを使って、内蔵デバイスに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- Floppy Disk Controller…フロッピーディスクコントローラを有効にするかどうか設定します。
 - Disabled : フロッピーディスクコントローラを無効にして、リソースを解放します。
 - Enabled（初期値）：フロッピーディスクコントローラを有効にします。
- IDE/SATA Configuration…IDE インターフェースおよび SATA インターフェースの動作モードを設定します。
 - Disabled : IDE インターフェースおよび SATA インターフェースを無効にして、リソースを解放します。IDE インターフェースおよび SATA インターフェースに接続されているデバイスはお使いになれなくなります。
 - Compatible : IDE インターフェースおよび SATA インターフェースを有効にし、従来の IDE インターフェースと互換性のあるモードで動作させます。
 - Enhanced（初期値）：IDE インターフェースおよび SATA インターフェースを有効にし、ネイティブ ATA モードで動作させます。ネイティブ ATA モードをサポートしていない OS では動作しません。

POINT

- ▶ 本設定は「Enhanced」（初期値）のまま変更せずにお使いください。

- SATA Combine Mode…「IDE/SATA Configuration」を「Compatible」に設定している場合に表示されます。プライマリチャンネルとして IDE インターフェースを定義するか SATA インターフェースを定義するかを設定します。
 - PATA-Primary : IDE インターフェースをプライマリチャンネルとして定義します。
 - SATA-Primary : SATA インターフェースをプライマリチャンネルとして定義します。

- **Primary Channel**…「IDE/SATA Configuration」を「Compatible」または「Enhanced」に設定している場合に表示されます。プライマリチャンネルを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : プライマリチャンネルを無効にします。
 - ・ Enabled (初期値) : プライマリチャンネルを有効にします。
- **Secondary Channel**…「IDE/SATA Configuration」を「Compatible」に設定している場合に表示されます。セカンダリチャンネルを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : セカンダリチャンネルを無効にします。
 - ・ Enabled (初期値) : セカンダリチャンネルを有効にします。
- **SATA Primary Channel**…「IDE/SATA Configuration」を「Enhanced」に設定している場合に表示されます。Serial ATA コネクタ 1 を有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : Serial ATA コネクタ 1 を無効にします。この場合、Serial ATA コネクタ 1 に接続されたデバイスはお使いになれません。
 - ・ Enabled : Serial ATA コネクタ 1 を有効にします。
- **SATA Secondary Channel**…「IDE/SATA Configuration」を「Enhanced」に設定している場合に表示されます。Serial ATA コネクタ 2 を有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : Serial ATA コネクタ 2 を無効にします。この場合、Serial ATA コネクタ 2 に接続されたデバイスはお使いになれません。
 - ・ Enabled : Serial ATA コネクタ 2 を有効にします。
- **Audio Controller**…内蔵のオーディオデバイスを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : 内蔵のオーディオデバイスを無効にします。
 - ・ Enabled (初期値) : 内蔵のオーディオデバイスを有効にします。
- **LAN Controller**…内蔵の LAN を有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : 内蔵の LAN を無効にして、リソースを解放します。
 - ・ Enabled (初期値) : 内蔵の LAN を有効にします。
- **1394 Controller**…内蔵の IEEE1394a コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : IEEE1394a コントローラを無効にします。
 - ・ Enabled (初期値) : IEEE1394a コントローラを有効にします。

□ USB Features

サブメニューを使って、USB コントローラに関する設定を行います。

- **USB Controller**…USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : すべての USB コントローラを無効にします。
 - ・ Rear Only : ワークステーション本体背面の USB コントローラのみを有効にします。
 - ・ Enabled/All (初期値) : すべての USB コントローラを有効にします。

POINT

- ▶ USB 機器を接続している場合、カスタムメイドでスマートカードリーダー/ライターを選択した場合は、「Enabled/All」に設定したままお使いください。

- **USB 2.0 Controller**…USB 2.0 コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : USB 2.0 コントローラを無効にします。
 - ・ Enabled (初期値) : USB 2.0 コントローラを有効にします。
- **USB Legacy Support**…USB に対応していない OS で USB 規格の周辺機器を使用可能にするかどうかを設定します (Windows XP は、USB 対応です)。
 - ・ Disabled (初期値) : USB に対応していない OS では、USB 規格の周辺機器が使用できません。

- KB/MS : USB に対応していない OS でも、USB キーボードおよび USB マウスが使用できます。
- Enabled : USB に対応していない OS でも、USB 規格の周辺機器が使用できます。

□ Video Features

サブメニューを使って、ディスプレイに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **Default Primary Video Adapter**…PCI のグラフィックスカードを増設した場合、PCI カードと PCI Express x16 Graphics カードのどちらをプライマリディスプレイとして使用するかを設定します。
 - PEG (初期値) : PCI Express x16 Graphics カードを使用します。
 - PCI : PCI カードを使用します。PCI のグラフィックスカードを増設していない場合は、PCI Express x16 Graphics カードを使用します。

□ CPU Features

サブメニューを使って、CPU に関する設定を行います。

- **Hyper Threading Technology**…本項目は、ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能に対応した CPU の場合に表示されます。ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能を有効にするか無効にするかを設定します。
 - Disabled (初期値) : 無効にします。
 - Enabled : 有効にします。
- **XD Bit functionality**…CPU の「エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能」を有効にするか無効にするかを設定します。
 - Enabled (初期値) : 有効にします。
 - Disabled : 無効にします。
- **Limit CPUID Functions**…本項目は、CPUID 命令の拡張 Function に対応した CPU を搭載した場合に表示されます。CPUID 命令の拡張 Function を制限するかどうかを設定します。拡張 Function に対応していない OS では、システムが起動しないことがあります。その場合は「Enabled」に設定してください。
 - Disabled (初期値) : CPUID 命令の拡張 Function を制限しません。
 - Enabled : CPUID 命令の拡張 Function を制限します。

□ Event Logging

サブメニューを使って、イベントログに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細が表示されます。

- **Event Log Capacity**…イベントログを保存可能かどうかが表示されます。
 - Space Available : イベントログは保存可能です。
 - Full : イベントログは保存できません。領域が一杯になっています。
- **Event Log Validity**…イベントログの内容が有効かどうかが表示されます。
 - Valid : イベントログの内容は有効です。
 - Invalid : イベントログの内容は無効です。内容が壊れている可能性があります。
- **View Event Log**…【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細が表示されます。
- **Clear All Event Logs**…再起動時にイベントログの内容を消去するかどうかを設定します。
 - No (初期値) : イベントログを消去しません。
 - Yes : イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定値は「No」になります。
- **Event Logging**…イベント発生時にイベントログを記録するかどうかを設定します。

- Disabled : イベントログを記録しません。
- Enabled (初期値) : イベントログを記録します。

□ Hardware Monitor

サブメニューを使って、メインボードに搭載されているハードウェアモニタの確認を行います。

- Temperature…ワークステーションの温度の情報を表示します。
 - CPU : CPU の現在の温度が表示されます。
 - System : メインボードに搭載されている温度センサー (System) の現在の温度が表示されます。
 - Rear : メインボードに搭載されている温度センサー (Rear) の現在の温度が表示されます。
- FAN Speed…ワークステーションのファンの情報を表示します。
 - CPU : CPU に取り付けられているファンの現在の回転数 (rpm) が表示されます。
 - System : メインボードに搭載されている System FAN コネクタ (→ P.19) に接続されているファンの現在の回転数 (rpm) が表示されます。
- Voltage…ワークステーションの電圧の情報を表示します。
 - Vcore : CPU の現在の電圧が表示されます。
 - +3.3V : 3.3V ラインの現在の電圧が表示されます。
 - +12V : 12V ラインの現在の電圧が表示されます。
 - +5V : 5V ラインの現在の電圧が表示されます。
 - VBAT : 内蔵バッテリーの現在の電圧が表示されます。

Security メニュー

Security メニューでは、本ワークステーションを特定の人だけが使用できるように設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ Supervisor Password Is

管理者用パスワードの設定状況が表示されます。

- ・ Clear : パスワードは設定されていません。
- ・ Set : パスワードが設定されています。

□ User Password Is

ユーザー用パスワードの設定状況が表示されます。

- ・ Clear : パスワードは設定されていません。
- ・ Set : パスワードが設定されています。

□ Set Supervisor Password

【Enter】キーを押して、システム管理者用のパスワードを設定します (→ P.154)。

POINT

- ▶ 「Set Supervisor Password」を設定すると、BIOS セットアップの起動時にパスワード入力を要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、ビーブ音が鳴り、「System Disabled」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本ワークステーションの電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

重要

- ▶ 管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなります。「パスワードを忘れると」(→ P.152)をご覧ください。

□ Set User Password

「Set Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。【Enter】キーを押して、一般利用者用のパスワードを設定します (→ P.154)。

POINT

- ▶ 「Set Supervisor Password」が設定されていないと、「Set User Password」は設定できません。
- ▶ 「Set User Password」を設定すると、一般利用者が BIOS セットアップで変更できる項目を制限できます。また、一般利用者のフロッピーディスクへのアクセスや、取り外し可能なディスクからの起動を禁止できます。

□ Minimum User Password Length

「Set Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。「Set User Password」で設定するパスワードの最低文字数を設定します。

- 0 (初期値) ~ 8

POINT

- ▶ 本設定は管理者用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合のみ設定できます。ユーザー用のパスワードでセットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定できなくなります。

□ Password on Boot

「Set Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。本ワークステーションの起動時にパスワードの入力を要求されるかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : 起動時にパスワードの入力を要求されません。
- First Boot : 電源を入れて最初の OS 起動時にパスワードの入力を要求されます。
- Every Boot : OS を起動、再起動するたびにパスワードの入力を要求されます。

□ On Automatic Wake up

「Password on Boot」が「First Boot」または「Every Boot」に設定されている場合に設定できます。「Wake up on LAN」、「Wake up on Time」、「AC Power Recovery」機能を使ってワークステーションを自動的に起動する場合に、パスワードの入力を要求されるかどうかを設定します。

- Disabled : ワークステーションの起動時にパスワードの入力を要求されません。
- Enabled (初期値) : ワークステーションの起動時にパスワードの入力を要求されます。

□ Boot from Removable Media

「Set Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。取り外し可能なディスクから OS を起動する権利を設定します。

- All (初期値) : すべてのユーザーが取り外し可能なディスクから OS を起動できます。
- Supervisor Only : 「Password on Boot」を使っている場合、管理者だけが取り外し可能なディスクから OS を起動できます。

「Password on Boot」を使っていない場合、または自動ウェイクアップ時は、すべてのユーザーが取り外し可能なディスクから OS を起動できません。

□ Flash Write

BIOS フラッシュメモリへの書き込みを可能にするかどうかを設定します。

- Disabled : 書き込みを禁止します。
- Enabled (初期値) : 書き込みを可能にします。

□ Hard Disk Boot Sector

ハードディスクの起動セクタをウイルスから保護するため、起動セクタへの書き込みを禁止するかどうかを設定します。

- Normal (初期値) : 起動セクタへの書き込みを禁止しません。
- Write Protect : 起動セクタへの書き込みを禁止します。

POINT

- ▶ OS やウイルス検出用ソフトウェアをインストールする場合は、「Normal」に設定してください。
- ▶ 本項目は、Windows XP では無効になります。

□ Chassis Open Warning

本体カバーが取り外されたことを POST 時にエラーとして検出するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : POST 時にエラーとして検出しません。
- Enabled : POST 時にエラーとして検出します。

POINT

- ▶ 筐体カバー開放を検出すると、本ワークステーションの起動時に次のメッセージが表示されます。
The system chassis has been opened.
メッセージを確認後、【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、「Exit」メニューで「Exit Saving Changes」を選択してください。次に本ワークステーションを起動するときに通常に起動します。
- Chassis Opened…本体カバーが取り外されたかどうかが表示されます。
 - Yes : 本体カバーが取り外されました。
 - No : 本体カバーが取り外されたことはありません。

POINT

- ▶ 本項目は「Chassis Open Warning」を「Enabled」に設定している場合に表示されます。

□ SmartCard PC Lock

OS や BIOS セットアップの起動時にスマートカードによる認証を行うかどうかを設定します。スマートカード (カスタムメイドオプション) をお使いの場合、本項目を設定します。

- Disabled (初期値) : スマートカードによる認証を行いません。
- Enabled : スマートカードによる認証を行います。

POINT

- ▶ 本項目は、カスタムメイドでスマートカードリーダー/ライタを選択した場合に表示されません。
- ▶ スマートカードを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』と「セキュリティ機能を使うには」(→P.156)をご覧ください。

□ Hard Disk Security

ハードディスクのセキュリティ機能を設定します。

- Primary Master/Slave、SATA Port 1/2…本ワークステーションに内蔵されているハードディスクのセキュリティ機能を有効、または無効にするかどうかを設定します。
なお、標準搭載のハードディスクは、ハードディスクセキュリティに対応しています。
 - Disabled (初期値) : ハードディスクのセキュリティ機能を無効にします。
 - Enabled : ハードディスクのセキュリティ機能を有効にして、特定の人だけがハードディスクを使えるようにします。起動時に設定されているパスワードを、ハードディスクに書き込まれているパスワードと照合します。一致しない場合、ハードディスクは使えません。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードで BIOS を起動した場合のみ設定できます。
- ▶ SCSI のハードディスクでは本機能はお使いになれません。
- ▶ ハードディスクがセキュリティ機能に対応していない場合や、ハードディスク以外の装置が接続されている場合は、灰色の文字で表示され、本設定を変更することはできません。
- ▶ 管理者用パスワードのみ設定した場合、ハードディスクには管理者用パスワードが書き込まれます。
管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定した場合、ハードディスクにはユーザー用パスワードが書き込まれます。
- ▶ パスワードを変更または解除した場合、ハードディスクに書き込まれたパスワードも変更または解除されます。
- ▶ パスワードが解除されたときは、本設定も同時に「Disabled」に設定され、ハードディスクのセキュリティ機能が解除されます。
- ▶ なんらかの原因(他のハードディスクと交換している間にパスワードを変更した場合など)でワークステーション本体のパスワードとハードディスクに書き込まれたパスワードが異なっている場合、そのハードディスクのパスワードを設定したワークステーションであっても、データは読み込めません。

重要

- ▶ パスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクセキュリティ機能を無効にすることができなくなります。「パスワードを忘れると」(→ P.152)をご覧ください。
- ▶ ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源をいったん切り、再度ワークステーションの電源を入れて、BIOS セットアップを起動してから設定を変更してください。また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOS セットアップの「Exit」メニューの「Save & Turn-off」を実行してワークステーションの電源を切ってください。
これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

□ Security Chip Setting

● Security Chip

セキュリティチップについて設定します。

- ・ Disabled (初期値) : セキュリティチップによるセキュリティ機能を使いません。
- ・ Enabled : セキュリティチップによるセキュリティ機能を使います。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。
- ▶ セキュリティチップを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』と「セキュリティ機能を使うには」(→ P.156)をご覧ください。
- ▶ セキュリティチップを有効にするには、BIOS セットアップ終了後に本ワークステーションを再起動してください。

● Clear Security Chip

セキュリティチップの情報を削除します。

 **POINT**

- ▶ 本項目は、「Security Chip」の設定が「Enabled」の場合で、実行可能な状態でのみ表示されます。
- ▶ セキュリティチップを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「セキュリティ機能を使うには」（→ P.156）をご覧ください。

Power メニュー

Power メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ ACPI Sleep Mode

ACPI 対応の OS のスタンバイ方式を設定します。

- ・ S1：スタンバイ方式を S1（標準）に設定します。システムの状態は保持していますが、CPU を停止させます。
- ・ S3（初期値）：スタンバイ方式を S3（高度）に設定します。システムの状態をメモリに保持し、その他の回路を停止させます。

POINT

- ▶ 本設定を変更する場合は、「機能」－「ACPI のスタンバイモードを設定する」（→ P.98）をご覧ください。

□ Automatic Wake up

サブメニューを使って自動的な起動またはスタンバイ状態からの復帰に関する設定を行います。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

POINT

- ▶ 本機能は、電源ボタンを 4 秒以上押しして電源を切った場合、動作しません。電源ボタンを 4 秒以上押しして電源を切った場合は、再度電源を入れ、「電源の切り方」（→『取扱説明書』）に従い、もう一度電源を切り直してください。
 - ▶ 本設定を変更した場合は、「Exit」メニューの「Exit Saving Changes」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「Exit」メニューの「Save & Turn-off」を選択した場合は、一度ワークステーションを起動しない限り、変更した設定は有効になりません。
- Wake up on LAN…内蔵の LAN および PME 対応の LAN カード (PCI) が Magic Packet を受信したときに本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。
 - ・ Disabled（初期値）：Magic Packet の受信で電源を入れません。
 - ・ Enabled：Magic Packet の受信で電源を入れます。

POINT

- ▶ Windows XP では、本項目を設定してスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。デバイスマネージャで設定してください。
 - ▶ 電源オフからの動作は、OS にかかわらず本設定が有効です。
 - ▶ 内蔵 LAN をお使いの場合、本設定は、停電などの AC 電源切断後も正常に動作します。PME 対応の LAN カード (PCI) をお使いの場合、本設定は「AC Power Recovery」を次のいずれかに設定にしているときのみ、停電などの AC 電源切断後も正常に動作します。
 - ・ Last State
 - ・ Power Off
- Wake up on Time…「Wake up Time」、「Wake up Date」で指定した時刻に本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。
 - ・ Disabled（初期値）：指定した時刻にワークステーションの電源を入れません。
 - ・ Enabled：指定した時刻にワークステーションの電源を入れます。

- **Wake up Time**… 「Wake up on Time」が「Enabled」に設定されている場合に設定できます。ウェイクアップする時刻を設定します。
 - ・ 00:00:00 (初期値) ~ 23:59:59
- **Wake up Date**… 「Wake up on Time」が「Enabled」に設定されている場合に設定できます。ウェイクアップする日付を設定します。
 - ・ **Every Day** (初期値) : 毎日、指定した時刻にワークステーションの電源が入ります。
 - ・ **Specified Day** : 指定した日付にワークステーションの電源が入ります。日付は1 ~ 31の間で指定します。

POINT

- ▶ Windows XP では、本項目を設定してスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。次の設定をしてください。
「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「タスク」－「スケジュールされたタスクの追加」で起動時間を設定し、プロパティの「設定」－「タスクの実行時にスリープを解除する」をチェックしてください。
- ▶ 電源オフからの動作は、OSにかかわらず本設定が有効です。
- ▶ 本設定は、停電などのAC電源切断後も、正常に動作します。

□ AC Power Recovery

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- ・ **Disabled** (初期値) : この機能を使いません。
- ・ **Power Off** : 電源が切れたままになります。
- ・ **Power On** : 電源が入ります。
- ・ **Last State** : 電源が切断されたときの状態に戻ります。

POINT

- ▶ 「Power Off」に設定した場合、または「Last State」に設定し、AC電源が切れる前の状態がシャットダウンや休止状態の場合、復電の際に一瞬電源が入りますが、故障ではありません。この現象を回避する場合は「Disabled」に設定してください。
- ▶ AC電源切断後10秒以上待ってから電源を入れてください。10秒以内に入れると正常に動作しない場合があります。
- ▶ 「Last State」に設定した場合、AC電源が切れる前の状態が起動中またはスタンバイ状態のときに、ワークステーション本体の電源が入ります。休止状態のときには、電源は入りません。
- ▶ UPSなどを使って復電時に電源を投入させたい場合は、「Power On」に設定してください。
- ▶ 本設定を変更した場合は、「Exit」メニューの「Exit Saving Changes」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「Exit」メニューの「Save & Turn-off」を選択した場合は、一度ワークステーションを起動しない限り、変更した設定は有効になりません。

Boot メニュー

Boot メニューでは、起動時の動作について設定を行います。

■ 設定項目の詳細

Halt on Errors

POST 時にエラーを検出する対象を設定します。

- ・ No Halt : エラーを検出しません。
- ・ w/o KB & FDD : キーボードとフロッピーディスクドライブに関するエラーは検出しません。
- ・ w/o FDD : フロッピーディスクドライブに関するエラーは検出しません。
- ・ w/o KB : キーボードに関するエラーは検出しません。
- ・ All Errors (初期値) : すべてのエラーを検出します。

Quick Boot

起動時に POST を簡略化するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 起動時に POST を簡略化しません。
- ・ Enabled (初期値) : 起動時に POST を簡略化します。
- ・ Auto : 起動時に POST を簡略化するかどうかを自動的に判断します。

POINT

- ▶ 起動時に POST でエラーが発生した場合、次回起動時は POST を簡略化しません。

Boot Time Diagnostic Screen

本ワークステーションの起動時に POST 画面を表示するかどうかを設定します。

- ・ Disabled (初期値) : 起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。
- ・ Enabled : 起動時に POST 画面を表示します。

Boot Menu

本ワークステーションの起動時に【F12】キーを押すことによって Boot Menu (起動デバイスを選択するメニュー) を表示するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : Boot Menu を表示しません。
- ・ Enabled (初期値) : Boot Menu を表示します。

Onboard LAN Boot

内蔵の LAN を経由してネットワークサーバーからの起動を有効にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 内蔵の LAN を経由したネットワークサーバーからの起動を無効にします。
- ・ PXE (初期値) : 内蔵の LAN を経由してネットワークサーバーから起動できるようにします。

POINT

- ▶ ネットワークサーバーから起動可能なLANカードをお使いの場合、「Boot Device Priority」に、お使いのLANカードのデバイス名が追加されます。表示されるデバイス名は、LANカードにより異なります。
- ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

□ Boot Device Priority

OSを読み込むデバイスの優先順位を設定します。

- **Boot priority order**…起動させるデバイスが、最大8個まで表示されます。各デバイスが起動する優先順位は、番号順になります。
- **Excluded from boot order**…「Boot priority order」に表示されていないデバイスが表示されます。

【↑】【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【Space】キーまたは【+】キーを押すと上位に、【-】キーを押すと下位にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。【X】キーを押すと、「Boot priority order」と「Excluded from boot order」間を選択したデバイスが移動します。

- ・ **Floppy Disk Drive**

起動ディスクがセットされているフロッピーディスクドライブから起動します。

- ・ **HDD0** : [お使いのハードディスク名称] - (PM)

IDE コネクタのプライマリに接続されたハードディスクドライブから起動します。[お使いのハードディスク名称] には、接続されているハードディスクドライブの名称が表示されます。ドライブが接続されていない場合は「None」と表示されます。

- ・ **HDD2** : [お使いのハードディスク名称] - (P0)

Serial ATA コネクタの Port1 に接続されたハードディスクドライブから起動します。[お使いのハードディスク名称] には、接続されているハードディスクドライブの名称が表示されます。ドライブが接続されていない場合は「None」と表示されます。

- ・ **SCSI** : [お使いのハードディスクドライブ名称]

SCSI カードに接続されたハードディスクドライブから起動します。SCSI カードが接続されていない場合は「None」と表示されます。

- ・ **CD/DVD** : [お使いの CD/DVD ドライブ名称] - (PS)

CD-ROM、DVD、CD-R/RW などの CD-ROM 互換デバイスから起動します。

POINT

- ▶ CD-ROMから起動するにはブート可能なCD-ROMが必要となります。再起動前にCD-ROMドライブにCD-ROMをセットしてください。

- ・ **NETWORK** : [ネットワークモジュール名称]

ネットワークサーバーから起動します。「Boot」 - 「Onboard LAN Boot」を「PXE」に設定した場合、[ネットワークモジュール名称] には標準搭載の PXE (Pre-boot Execution Environment) の名称「MBA vn.n.n Slot nnnn」が表示されます。「Disabled」に設定した場合は「None」と表示されます。

POINT

- ▶ ネットワークサーバーから起動可能なLANカードをお使いの場合、[ネットワークモジュール名称] にはお使いのLANカードのネットワークモジュール名が表示されます。

Info メニュー

Info メニューには、BIOS セットアップやワークステーション本体についての情報が表示されます。設定の変更はできません。

■ 設定項目の詳細

BIOS Version

BIOS のバージョンが表示されます。

「1.00」と表示されている場合、BIOS のバージョンは「Version 1.00」です。

BIOS Date

BIOS の日付が表示されます。

Processor Type

本ワークステーションに搭載されている CPU の種類が表示されます。

Processor Speed

本ワークステーションに搭載されている動作クロック数が表示されます。

L1 Cache

CPU の 1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

L2 Cache

CPU の 2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

Total Memory

ワークステーションに搭載しているメインメモリ（RAM）の合計容量が表示されます。

DIMM1 (CH-A) /2 (CH-B)

メモリスロットに取り付けられているメモリの容量を検出して表示します。

メモリが取り付けられていない場合は「None」と表示されます。

Memory Mode

メインメモリの動作モードが表示されます。

- Single : シングルモードで動作しています。
- Dual/Inter leaved : デュアルモードで動作しています。

Onboard MAC Address

本ワークステーションに内蔵されている LAN の MAC アドレスが表示されます。

「Advanced」 - 「Internal Device Configurations」 - 「LAN Controller」を「Disabled」に設定した場合は、「N/A」と表示されます。

Configuration ID

本ワークステーションのカスタムメイド（BTO）番号が表示されます。

Exit メニュー

Exit メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

■ 設定項目の詳細

Exit Saving Changes

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了するときに選びます。この項目にカーソルを合わせて **【Enter】** キーを押すと、「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。「Yes」を選択し、**【Enter】** キーを押してください。

Save & Turn-off

設定した内容を CMOS RAM に保存してワークステーションの電源を切るときに選びます。

Exit Discarding Changes

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了するときに選びます。設定を変更している場合、この項目にカーソルを合わせて **【Enter】** キーを押すと、「Configuration has not been saved! Save before exiting?」というメッセージが表示されます。「No」を選択し、**【Enter】** キーを押してください。「Yes」を選択すると、CMOS RAM に保存されます。

Load Setup Defaults

すべての設定項目を標準設定値にするときに選びます。この項目にカーソルを合わせて **【Enter】** キーを押すと、「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。「Yes」を選択し、**【Enter】** キーを押してください。

Discard Changes

すべての項目について、変更した設定を取り消すときに選びます。CMOS RAM から変更前の値を読み込みます。この項目にカーソルを合わせて **【Enter】** キーを押すと、「Load previous configuration now?」というメッセージが表示されます。「Yes」を選択し、**【Enter】** キーを押してください。

Save Changes

設定した内容を CMOS RAM に保存するときに選びます。この項目にカーソルを合わせて **【Enter】** キーを押すと、「Save configuration changes now?」というメッセージが表示されます。「Yes」を選択し、**【Enter】** キーを押してください。

4 BIOS のパスワード機能を使う

本ワークステーションのデータを守るためのパスワード機能を説明します。

本ワークステーションは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本ワークステーションを使えなくなります。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次の2つです。

入力するパスワードにより、本ワークステーション操作の権限が区別されます。

- **Supervisor Password (管理者用パスワード)**

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするための、システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

- **User Password (ユーザー用パスワード)**

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするための、一般利用者用のパスワードです。「Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。

User Password で起動した場合、設定できる項目が「Set User Password」のみに制限されます。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

パスワードを忘れると

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動できなくなります。そのため、ワークステーションを起動できなくなったり、BIOS セットアップのほとんどの項目で設定値を変更できなくなったりします。

また、ハードディスクセキュリティ機能が有効の場合、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を無効にできなくなります。

この場合は、修理（有償）が必要となりますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。無償修理期間中でも有償となります。

重要

- ▶ セキュリティチップを使用している場合、メインボードを修理した後にセキュリティチップの復元処理が必要になります。詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「セキュリティ機能を使うには」（→ P.156）をご覧ください。
- ▶ ハードディスクの修理を行うと、ハードディスク内のデータは初期化されるため復旧できません。データのバックアップができる場合は、必ず修理の前にバックアップしてください。
ただし、起動時のパスワードを設定している場合、管理者用とユーザー用のパスワードを両方とも忘れると、データのバックアップはできません。

 **POINT**

- ▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。

パスワードを設定する

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを設定する前に、管理者用パスワードを設定してください。

- 1 「Security」メニューで「Set Supervisor Password」、または「Set User Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

Set Supervisor Password	
Enter New Password	[■■■■■]
Confirm New Password	[■■■■■]
NumLock ON	

Set User Password	
Enter New Password	[■■■■■]
Confirm New Password	[■■■■■]
NumLock ON	

POINT

- ▶ 「Set Supervisor Password」が設定されていないと、「Set User Password」は設定できません。

- 2 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

ユーザー用パスワードの最低文字数は「Minimum User Password Length」で設定できます。

POINT

- ▶ パスワードを再設定する場合は、現在のパスワードを入力する項目があります。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「Confirm New Password」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

- 4 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「Setup Notice」と書かれたウィンドウが表示されます。

- 5 【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Setup Warning」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順2からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

- 6 BIOS セットアップを終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(→ P.133)

POINT

- ▶ 設定したパスワードは、忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを設定した後は

「Set Supervisor Password」を設定すると、BIOS セットアップを始めるときに、パスワード入力用ウィンドウが表示されます。また、OS 起動時にも、パスワードの入力用ウィンドウを表示するように設定することができます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

Enter Password	[XXXXXXXXXX]
	NumLock ON

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴りシステムが停止します。この場合は、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

- パスワードを変更するには、「Set Supervisor Password」または「Set User Password」の項目にカーソルを合わせ、新しいパスワードを入力します。

■ パスワードを削除する

- パスワードを削除するには、「Set Supervisor Password」または「Set User Password」の項目で、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- 管理者用パスワードが削除されたときは、「Hard Disk Security」(→ P.143)の設定も同時に「Disabled」に設定され、ハードディスクのセキュリティ機能が解除されます。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ機能を有効に設定している場合
ハードディスクパスワードを変更したり削除したりする場合には、Windowsの「終了オプション」から「電源を切る」を実行していったんワークステーションの電源を切り、電源ボタンを押してワークステーションの電源を入れてからBIOSセットアップを起動してください。また、パスワードの設定を変更したり削除したりした後は、必ず「Exit」メニューの「Save & Turn-off」を実行してワークステーションの電源を切ってください。
これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

5 セキュリティ機能を使うには

ここでは、セキュリティチップ、スマートカードのセキュリティ機能をお使いになるために必要な BIOS セットアップの設定について、説明しています。

これらのセキュリティ機能をお使いになる場合は、最初に『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をよくお読みください。『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』では、お使いになるうえでの注意事項や操作の手順について記載しています。確認のうえ、BIOS セットアップを操作してください。

セキュリティチップ

重要

- ▶ セキュリティチップをお使いになるには、『SMARTACCESSファーストステップガイド(認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。その中に BIOS セットアップの操作が必要な場合があります。必要に応じて、次の BIOS セットアップの設定を行うようにしてください。次の BIOS セットアップの設定だけではセキュリティチップはお使いになれません。

■ 管理者用パスワードの設定方法

「パスワードを設定する」(→ P.154) をご覧ください。

■ メニューの設定

□ セキュリティチップを使用する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.131) をご覧ください。
- 2** 「Security」メニューで、「Security Chip Setting」(→ P.144) を選択して【Enter】キーを押します。
「Security Chip」が表示されます。
- 3** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、「Security Chip」の項目を「Enabled」に設定します。
- 4** 【Esc】キーを2回押します。
「Exit」メニューが表示されます。
- 5** 「Exit Saving Changes」を選択し、BIOS セットアップを終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.133) をご覧ください。

重要

- ▶ セキュリティチップの設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「Exit Saving Changes」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「Save & Turn-off」を選択してワークステーション本体の電源を切ったり、「Save Changes」を選択した後で電源を切ったりすると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

□ セキュリティチップの鍵を消去する

重要

- ▶ この後の操作は、通常行う必要がありません。
鍵の消去については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をお読みになり、確認してください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」（→ P.131）をご覧ください。
- 2** 「Security」メニューで、「Security Chip Setting」（→ P.144）の「Clear Security Chip」を選択し、【Enter】キーを押します。
クリアの続行を確認するメッセージが表示されます。
- 3** 「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4** 【Esc】キーを2回押します。
「Exit」メニューが表示されます。
- 5** 「Exit Saving Changes」を選択し、BIOS セットアップを終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」（→ P.133）をご覧ください。

重要

- ▶ セキュリティチップの設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「Exit Saving Changes」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「Save & Turn-off」を選択してワークステーション本体の電源を切ったり、「Save Changes」を選択した後で電源を切ったりすると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

スマートカード

重要

- ▶ カスタムメイドの選択によってはお使いになれません。
- ▶ スマートカードをお使いになるには、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。その中に BIOS セットアップの操作が必要な場合があります。必要に応じて、次の BIOS セットアップの操作を行うようにしてください。次の BIOS セットアップの操作だけではスマートカードはお使いになれません。

■ パスワードの設定方法

あらかじめスマートカードに登録した BIOS ロック用パスワードと同じパスワードを、管理者用パスワードとユーザー用パスワードに設定します。

「パスワードを設定する」(→ P.154) をご覧ください。

重要

- ▶ 必ず、スマートカードを作成したときに設定したパスワードと同じパスワードであることを確認してください。管理者用パスワードの設定に失敗すると、ワークステーション本体が起動できなくなります。

■ メニューの設定

□ スマートカードを使用する

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.131) をご覧ください。
- 2 「Security」メニューで、「SmartCard PC Lock」(→ P.143) を選択します。
- 3 【Space】キーまたは【一】キーを押して、「Enabled」に設定します。

POINT

- ▶ 必要に応じて、「Security」メニューで、「Password on Boot」の設定をしてください(→ P.142)。
- 4 【Esc】キーを押します。
「Exit」メニューが表示されます。
 - 5 BIOS セットアップを終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.133) をご覧ください。

□ パスワードを変更する

パスワードを変更する場合、変更前に必ず「Security」メニューで「SmartCard PC Lock」を「Disabled」に設定してください。「Disabled」に設定しないでパスワードを変更すると、本ワークステーションが起動できなくなります。ユーザー用パスワードは「Enabled」に設定したまま変更できますが、カードが破損した場合などに、使用できなくなります。

パスワードの変更後、「スマートカードを使用する」(→ P.158) をご覧になり、「SmartCard PC Lock」(→ P.143) を「Enabled」に設定してください。

重要

- ▶ パスワードの変更は、管理者用、ユーザー用とも、管理者権限でのみ行うことができます。

■ スマートカード使用時のエラーメッセージ

There is no Smartcard
Insert Smartcard [Continue]

スマートカードが挿入されていないときに表示されます。

Invalid PIN
You can try nn times before Smartcard locked [Continue]

PIN の入力を間違えたときに、PIN を入力できる残り回数を表示します。

Invalid PIN
You can try once before Smartcard locked [Continue]

PIN を入力できる残り回数が 1 回のときに表示されます。

Failed to connect with Smartcard
Try again [Continue]

スマートカードリーダー/ライターやスマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Invalid Smartcard
Insert the correct Smartcard [Continue]

読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。正常なカードをお使いになるか、ログオン情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

System Disabled

読み取りに必要な情報がないスマートカードを挿入し、PIN を 3 回以上入力したときに表示されます。この場合、電源ボタンを押して、ワークステーション本体の電源を切ってください。

The Smartcard is locked

スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、電源ボタンを押して、ワークステーション本体の電源を切ってください。

The Smartcard is locked already

スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、電源ボタンを押して、ワークステーション本体の電源を切ってください。

 **POINT**

- ▶ 本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの対処方法を説明します。必要に応じてお読みください。

エラーメッセージが記録されたときは

「エラーメッセージ一覧」(→P.161)に記載の処置をしてください。

処置を実行しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

エラーメッセージ一覧

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの一覧は、次のとおりです。

- CMOS Checksum Error

CMOS チェックサムが間違っています。すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。

BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

BIOS 設定を標準設定値から変更している場合は設定変更後、設定した内容を保存して BIOS セットアップを終了してください。

- Keyboard Error

キーボードテストでエラーが発生しました。

電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。

- Floppy Drive A Error

フロッピーディスクドライブテストでエラーが発生しました。

電源を切って、フロッピーディスクドライブが正しく取り付けられているか、確認してください。

- Security Chip not found

セキュリティチップが正常に認識されていません。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Security Chip MPD function execution error

セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Security Chip MPD function error

セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **Security Chip initialization error**

セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **nnn FAN Error**

POST 時のファン確認時にエラーが発生しました。
電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- **nnn Voltage Error**

POST 時の電圧確認時にエラーが発生しました。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **The system chassis was opened**

本体カバーが取り外されました。
本体カバーが取り付けられていることを確認後、BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。
- **Single-Bit Error DIMM n**

メモリスロット DIMM n で 1bit のエラーが発生し、訂正されました。
そのまま使用し続けても問題ありません。
それでも頻発する場合は電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
- **Multi-Bit Error DIMM n**

メモリスロット DIMM n で訂正不可能なエラーが発生しました。
電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
- **Non-ECC DIMM detected**

サポート外のメモリが取り付けられています。
弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。
- **Unsupported DIMM detected**

サポート外のメモリが取り付けられています。
弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。
- **PCI System error B:nn D:nn F:nn**

PCI デバイスでシステムエラー (SERR) が発生しました。
電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。
- **PCI Parity error B:nn D:nn F:nn**

PCI デバイスでパリティエラー (PERR) が発生しました。
電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。
- **nnn Temperature Error**

温度異常を検出しました。
電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
10 分程待つてから電源を入れ直してください。
- **Password Error**

誤ったパスワードが入力されました。
- **PnP MemoryConflict**

次のいずれかのエラーが発生しました。
 - ・ 拡張カードで、拡張 ROM が初期化されなかった
 - ・ 拡張カードに、故障が発生した電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。

- PnP IRQ Conflict

リソースの衝突が発生しました。

BIOS セットアップでリソースの設定を確認してください。

Memo

第 8 章 技術情報

8

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	166
2 コネクタ仕様	170

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		CELSIUS J340
CPU 注1		Intel® Pentium® 4 プロセッサ 630
		3 GHz 注2
キャッシュメモリ		1次: 12K μ Ops 実行トレース +16KB データ、2次: 2MB (CPU 内蔵)
チップセット		Intel® 955X Express Chipset
システム・バス		800MHz
メインメモリ		標準 512MB (256MB \times 2 DDR2 SDRAM /PC2-4200) ECC あり、最大 2GB
メモリスロット		\times 2 (空きスロットなし)
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ \times 1 (3 モード対応) 注3
ハードディスクドライブ注4		80GB (Serial ATA/150、8MB cache、7200rpm) 注5
CD ドライブ注6		CD-ROM 読出: 最大 40 倍速
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 High Definition Audio バスコントローラ + High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 96kHz、24 ビット (再生時) 注7、 サンプリング周波数 最大 96kHz、20 ビット (録音時) 注7、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠、Wakeup on LAN 対応注8
セキュリティ機能	スマートカード注9	あり
	セキュリティチップ注10	TCG Ver1.1b 準拠
	盗難防止用ロック	あり
	本体カバーキー注9	あり
	筐体施錠	あり
インターフェース	シリアル	非同期 RS-232C 準拠 D-SUB9 ピン \times 2 (16550A 互換)
	パラレル	セントロニクス準拠 ECP/EPP 対応 D-SUB25 ピン \times 1
	キーボード/マウス	PS/2 準拠 Mini-DIN 6 ピン (キーボード用 \times 1、マウス用 \times 1)
	USB 注11	USB2.0 準拠 \times 7 (前面 \times 2、背面 \times 4、内部 \times 1) 注12
	IEEE1394a 注13	4 ピン \times 1 (S400)
	LAN	RJ-45 \times 1
	オーディオ	マイク: ϕ 3.5mm ミニジャック (入力: 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 5k Ω 以上 (DC) 2k Ω 以上)、 ヘッドホン: ϕ 3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力: 1mW 以上、負荷インピーダンス 32 Ω)、 ラインイン: ϕ 3.5mm ステレオ・ミニジャック、 ラインアウト: ϕ 3.5mm ステレオ・ミニジャック
障害監視機能 (POST 時)	カバーセンサー、ファン停止、電源電圧	
拡張スロット数	\times 3 PCI Express x16 Graphics \times 1 PCI Express x1 \times 1 (ハーフ: 176mm) 注14 32bit/33MHz PCI (Low Profile 対応) (Rev 2.3 準拠) \times 1 (ハーフ: 176mm)	
ファイルベイ数	\times 2 前面: 5 インチファイルベイ \times 1 (CD-ROM 搭載済み) 内部: 3.5 インチファイルベイ \times 1 (ハードディスクドライブ搭載済み)	
電源/周波数	AC100V \pm 10%、50/60Hz \pm 2% - 4%	
消費電力注15	電源 OFF 時注16	3W 以下
	動作時注17	通常約 98W 最大約 238W スタンバイ時約 2.6W

製品名称		CELSIUS J340
定格電流	動作時	最大 7A (アウトレット最大 3A を含む)
外形寸法 (突起部含まず)		縦置きの場合: W 99 × D 367 × H 357 mm, W 189 × D 367 × H 371 mm (フット装着時) 横置きの場合: W 357 × D 367 × H 99 mm, W 447 × D 367 × H 113 mm (フット装着時)
質量		約 9.3kg
温湿度条件		温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80% RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80% RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
ブレインストール OS		Windows XP Professional モデル: Windows XP Professional 注 18 (DirectX 9.0c 対応)

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

- 注 1 : ソフトウェアによっては、CPU 名表記が異なる場合があります。
- 注 2 : カスタムメイドの選択によっては、次の CPU が搭載されている場合があります。
Intel® Pentium® 4 プロセッサ 650 (3.40 GHz)
- 注 3 : ・ フロッピーディスクは、フォーマットした環境 (メーカー、機種、ソフトウェア) によっては、データを読み書きできない場合があります。
対応メディアは、2HD (1.44MB、1.2MB) と 2DD (720KB) です。
・ Windows XP では、1.44MB 以外のフォーマットはできません。
- 注 4 : 本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。
- 注 5 : カスタムメイドの選択によっては、160GB (Serial ATA/150、8MB cache、7200rpm) の場合もあります。
- 注 6 : カスタムメイドの選択によって、次のドライブが搭載されていることがあります。なお、各数値は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

スーパーマルチドライブ (バッファアンダーランエラー防止機能あり)	CD-ROM 読出: 最大 40 倍速、CD-R 読出: 最大 40 倍速、 CD-R 書込: 最大 40 倍速、CD-RW 読出: 最大 24 倍速、 CD-RW 書込/書換: 最大 10 倍速、 DVD-RAM 読出/書込/書換: 最大 5 倍速、 DVD-R 読出: 最大 12 倍速、DVD-R 書込: 最大 16 倍速、 DVD-RW 読出: 最大 8 倍速、DVD-RW 書込/書換: 最大 6 倍速、 DVD-ROM 読出: 最大 16 倍速、DVD-Video 読出: 最大 6 倍速、 DVD+R 読出: 最大 12 倍速、DVD+R 書込: 最大 16 倍速、 DVD+R DL 読出: 最大 8 倍速、DVD+R DL 書込: 最大 4 倍速、 DVD-R DL 読出: 最大 8 倍速、DVD-R DL 書込: 最大 4 倍速、 DVD+RW 読出: 最大 8 倍速、DVD+RW 書込/書換: 最大 8 倍速
--------------------------------------	---

- 注 7 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注 8 : 本ワークステーションには 1000BASE-T の LAN 機能が搭載されています。
・ 本ワークステーションの LAN 機能は 1000BASE-T に対応し、1Gbps (1000Mbps) の高速なデータ通信をサポートします。
また、従来の 100BASE-TX、10BASE-T もサポートしているため、通信速度の自動認識を行い、既存のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) にそのまま接続することができます。
・ 本ワークステーションでは、ACPI モード (ご購入時の設定) のときにスタンバイと休止状態からの Wakeup on LAN 機能がお使いになれます。
- 注 9 : カスタムメイドの選択によっては、搭載されていません。
- 注 10 : ご購入時のセキュリティチップの設定は、無効になっています。
- 注 11 : ・ すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
・ USB1.1 準拠の周辺機器を接続している場合、USB1.1 の仕様でお使いになれます。
・ 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。
- 注 12 : カスタムメイドでスマートカードリーダー/ライタを選択した場合、内部の USB インターフェースを 1 つ使用します。
- 注 13 : すべての IEEE1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
- 注 14 : ・ すべての PCI Express x1 規格のカードについて動作保証するものではありません。
・ カスタムメイドでグラフィックスカードの Quadro FX 1500 を選択した場合は拡張スロット数は次のようになります。

拡張スロット数	× 2 PCI Express x16 Graphics × 1 PCI Express x1 × 0 (使用不可) 32bit/33MHz PCI (Low Profile 対応) (Rev 2.3 準拠) × 1 (ハーフ: 176mm)
---------	--

- 注 15 : ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。
- 注 16 : 電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「O」側に切り替えるか、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 17 : ご使用になる機器構成により値は変動します。
- 注 18 : 出荷時に、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載が適用されています。

省エネ法に基づくエネルギー消費効率

CPU		Pentium® 4 プロセッサ 630	Pentium® 4 プロセッサ 650
		3 GHz	3.40 GHz
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 [単位 :W/MTOPS]	2005 年度基準	0.00021 【P 区分】(AAA)	0.00019 【P 区分】(AAA)
	2007 年度基準	0.0038 【j 区分】(A)	0.0028 【j 区分】(A)

注：エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語 A は達成率 100%以上 200%未満、AA は達成率 200%以上 500%未満、AAA は達成率 500%以上を示します。

LAN 機能

LAN コントローラ	Broadcom BCM5751
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 40kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (1Gbps : カテゴリ 5E 以上、100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	1Gbps、100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注1：ケーブルは、必ずお使いのネットワーク・スピードに対応したデータグレードのケーブルをお使いください。データグレードの低いケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注2：ハブユニットとは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

表示機能

■ 標準モデル

グラフィックスアクセラレータ	RADEON X300 SE
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） プライマリ：最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時） セカンダリ：最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時）
インターフェース	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）29 ピン（コピープロテクション非対応）× 1
DirectX	DirectX9.0
OpenGL	OpenGL 1.5

■ カスタムメイドで FireGL V5000 を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	FireGL V5000
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） 最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時）
インターフェース	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）29 ピン（コピープロテクション非対応）× 2
DirectX	DirectX9.0
OpenGL	OpenGL 1.5

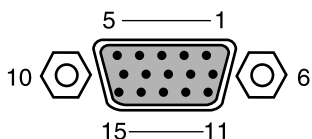
■ カスタムメイドで Quadro FX 550、Quadro FX 1500 を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	Quadro FX 550	Quadro FX 1500
ビデオ RAM	128MB	256MB
解像度／発色数	最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） 最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時）	
インターフェース	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）29 ピン（コピープロテクション非対応）× 2	
DirectX	DirectX9.0	
OpenGL	OpenGL 2.0	

2 コネクタ仕様

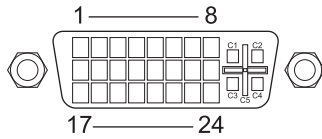
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ アナログ RGB コネクタ



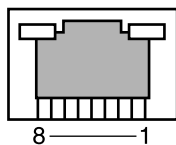
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	ID1 (SDA)	入出力	DDC データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

■ DVI-I コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル 2-
2	TX2+	出力	データチャンネル 2+
3	TX2/4 Shield	—	グラウンド
4	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
5	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル 1-
10	TX1+	出力	データチャンネル 1+
11	TX1/3 Shield	—	グラウンド
12	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
13	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グラウンド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル 0-
18	TX0+	出力	データチャンネル 0+
19	TX0/5 Shield	—	グラウンド
20	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
21	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
22	TXC Shield	—	グラウンド
23	TXC+	出力	データクロック +
24	TXC-	出力	データクロック -
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog H Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググラウンド

■ LAN コネクタ (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)



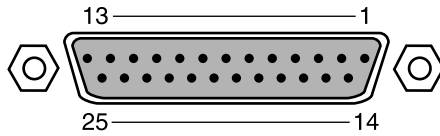
□ 1000BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TRD0+	入出力	送受信データ 0+
2	TRD0-	入出力	送受信データ 0-
3	TRD1+	入出力	送受信データ 1+
4	TRD2+	入出力	送受信データ 2+
5	TRD2-	入出力	送受信データ 2-
6	TRD1-	入出力	送受信データ 1-
7	TRD3+	入出力	送受信データ 3+
8	TRD3-	入出力	送受信データ 3-

□ 100BASE-TX/10BASE-T

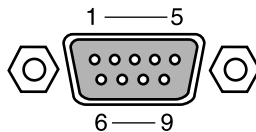
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■ パラレルコネクタ



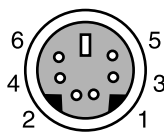
ピン番号	信号名	方向	説明
1	* STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	* ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	* AUTOFD	出力	自動送り
15	* ERROR	入力	エラー
16	* INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18～25	GND	—	グラウンド

■ シリアルコネクタ



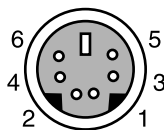
ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



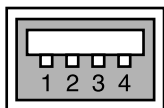
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

■ IEEE1394a コネクタ

1-4



ピン番号	信号名	方向	内容
1	TPB-	入出力	- データ信号
2	TPB+	入出力	+ データ信号
3	TPA-	入出力	- データ信号
4	TPA+	入出力	+ データ信号

Memo

第9章

9

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	178
2	トラブル発生時の基本操作	180
3	起動・終了時のトラブル	185
4	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	187
5	ハードウェア関連のトラブル	189
6	それでも解決できないときは	203

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

■ 本ワークステーションの注意事項

- 本体カバーを外した状態でお使いにならないでください。
- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートの本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本ワークステーションや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

- 「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.104)
- 「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.106)

『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本ワークステーションに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社の富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「UpdateAdvisor」を利用すると、本ワークステーションに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。

Windows については、「Windows Update」で最新の修正プログラムを入手できます。Office 製品については、「Office のアップデート」で最新の修正プログラムを入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータはフロッピーディスクや CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア/ソフトウェア要件
使用したい周辺機器やソフトウェアが本ワークステーションのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。
- 取り付け時やインストール時に注意すべき点
特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- 問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本ワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源ボタンはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押され、本ワークステーションが正常に動作しないことがあります。

この他、「起動・終了時のトラブル」(→ P.185) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください (→ P.179)。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

- 3 「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

Safe モードで起動する

Windows が起動しない場合、Safe モードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 お使いの Windows が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
- 5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.127）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア（IRQ）の競合が起こっていないか確認してください。
確認方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 競合しているデバイスを確認します。
競合しているデバイス名にはエクスクラメーションマーク (!) が表示されています。
または、×印が表示されている場合もあります。

4 競合しているデバイスがある場合は、IRQ を変更します。

変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。

また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本ワークステーションの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルなどで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

診断／修正プログラムを使用する

本ワークステーションでは、次のワークステーション診断／修正プログラムを用意しています。

- 「UpdateAdvisor (本体装置)」 (→ P.182)
- 「FM Advisor」 (→ P.183)
- 「FMV 診断」 (→ P.183)
- 「QT-PC/U」 (→ P.183)

■ UpdateAdvisor (本体装置)

□ 概要

適用すべき修正データをダウンロードして適用することができます。

POINT

- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、Azby Enterprise の会員 ID、または SupportDesk サービス契約ユーザー等のユーザー ID が必要です。Azby Enterprise および SupportDesk については、富士通製品情報ページ (<http://www.fimworld.net/biz/celsius/>) をご覧ください。
- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、インターネットに接続し、「UpdateAdvisor (本体装置)」を最新バージョンにアップデートする必要があります。起動時に、確認のメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてアップデートしてください。

1 「スタート」ボタン → 「すべてのプログラム」 → 「UpdateAdvisor」 → 「UpdateAdvisor (本体装置)」の順にクリックします。

調査結果が表示されます。

この後は、調査結果に従って操作します。

■ FM Advisor

□ 概要

「FM Advisor」で使用環境を調査すると、問題解決のヒントを得ることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
調査結果が表示されます。

■ FMV 診断

□ 概要

「FMV 診断」でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ▶ 起動中のソフトウェアや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ▶ フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- ▶ CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ▶ ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

■ QT-PC/U

Windows が起動しないために「FMV 診断」が使用できない場合、「ドライバーズディスク」から起動できる「QT-PC/U」を使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせの際にお知らせください。診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

次のものを用意してください。

- ドライバーズディスク

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 本ワークステーションの電源を一度切り、再び電源を入れます。
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
Boot Menu が表示されます。
【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows の起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、キーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F12】キーを数回押してください。

4 「CD/DVD」を選択し、【Enter】キーを押します。

自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。

- ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 桁のエラーコードが表示されます。
お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。
- ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。

5 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。

Eject CD-ROM.

Press Ctrl + ALT + DEL for power off

6 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押します。

7 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。

[Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?

「+++++」と表示された後に電源ボタンを押して電源を切ります。

以上で QT-PC/U での診断は終了です。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。
リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ リカバリ起動時に「起動エラー」が発生した場合

- 周辺機器を取り外してください。
- 媒体を柔らかい布で拭いてください。

■ リカバリ後も状態が改善されない場合

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

□ ビープ音が鳴った

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

□ 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- 電源スイッチ付きの AC タップをお使いの場合、AC タップの電源は入っていますか？

□ 画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・1 台目のディスプレイは、コネクタ「1」に接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットもしくはコンセントに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・デジタルディスプレイを使用する場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
 - ・セットアップ前に、2 台目のディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください (→ P.76)。
- 省電力モードが設定されていませんか？
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
ワークステーション本体の電源ランプがオレンジ色になっている場合は、ACPI モードの高度 (ACPI S3) に移行している可能性があります。ワークステーション本体の電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
- 電源ボタンを押す以外の方法で本ワークステーションをスタンバイモードからレジュームさせた場合、画面は表示されません。詳しくは、「機能」－「スタンバイまたは休止状態からのレジューム」(→ P.97) をご覧ください。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。画面が表示されます。

- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。
マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. Windows を終了します。
表示されるウィンドウによって手順が異なります。
 - ・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
 - ・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
 1. 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.194）。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れてください。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明します。トラブルにあわせてご覧ください。

□ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.180）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- Safe モードで起動できますか？
いったん Safe モードで起動し（→ P.181）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。
- 「ドライバズディスク」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムでワークステーションの診断をしてください（→ P.183）。
「QT-PC/U」でエラーが発生しなかった場合は、リカバリを行い、本ワークステーションをご購入時の状態に戻してください（→『取扱説明書』）。
それでも解決しない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

□ Windows にログオンできない

- セキュリティチップを使用し、「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windows にログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録しなおす必要があります。機器構成を登録については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- セキュリティチップを使用して Windows ログオンを行っている場合、BIOS セットアップの設定を次のようにすると、Windows にログオンできなくなります。
 - ・「Security」メニュー - 「Security Chip Setting」 - 「Security Chip」：「Disabled」
この場合、BIOS セットアップの設定を「Enabled」に設定しなおしてください。また、「回避パスワード」でログオンすることもできます。「回避パスワード」については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

□ プログラムが動かなくなりました

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Shift】 + 【Esc】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。

4. 「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします (→ P.194)。

□ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」(→ P.92) をご覧ください。

□ 周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.127) をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。

□ ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.190)
- BIOS の「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.190)
- ワークステーション本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.190)
- 「仮想メモリが足りない」(→ P.191)
- 「ネットワークに接続できない」(→ P.192)
- 「ネットワークリソースに接続できない」(→ P.192)
- 「ネットワークアダプタ名が同じ名前が表示される」(→ P.192)
- LAN の通信時に「1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い」(→ P.193)
- 「ハードディスクが使えない」(→ P.193)
- 「ハードディスクからカリカリ音がする」(→ P.193)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定」(→ P.194)
- 次の「機器が使用できない」(→ P.194)
 - ・ USB
 - ・ IEEE1394a
 - ・ CD/DVD
 - ・ フロッピーディスク
 - ・ シリアル
 - ・ パラレル
- (CD/DVD) 「ディスクからデータの読み出しができない」(→ P.194)
- (CD/DVD) 「ディスクが取り出せない」(→ P.195)
- 「DVD の再生が円滑に行われない」(→ P.195)
- 「外部ディスプレイに再生画面が表示されない」(→ P.195)
- 「DVD の再生音が小さい」(→ P.195)
- 「DVD-RAM ディスクにデータが書き込めない」(→ P.195)
- 「ディスクへの書き込み速度が遅い」(→ P.195)
- 「フロッピーディスクが使えない」(→ P.196)
- 「フロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない」(→ P.196)
- 「SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows から認識できない」(→ P.196)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.197)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.197)
- 「表示が乱れる」(→ P.197)
- 「画面の両サイドが欠ける」(→ P.198)
- 「リカバリ後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない」(→ P.198)
- (ディスプレイ) 「その他」(→ P.198)
- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.198)
- 「キーボードから入力した文字が表示されない」(→ P.199)
- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.199)
- 「マウスカーソルが動かない」(→ P.199)

- 「マウスカーソルが正しく動作しない（光学式マウスの場合）」（→ P.199）
- 「マウスが使えないため、Windowsを終了できない」（→ P.200）
- 「マウスの中ボタンが動作しない（3ボタンマウスの場合）」（→ P.200）
- 「USB デバイスが使えない」（→ P.200）
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」（→ P.200）
- 「IEEE1394a デバイスが使えない」（→ P.201）
- 「IEEE1394a デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」（→ P.201）
- 「本体カバーキーをなくしてしまった（カスタムメイドの「本体カバーキー追加」を選択している場合）」（→ P.201）
- 「プリンタを使用できない」（→ P.201）
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」（→ P.202）

BIOS

□ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

□ ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、ユーザー用パスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」（→ P.152）をご覧ください。

□ エラーメッセージが表示された

ワークステーション本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

メモリ

□ 仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
NTFS	パーティションサイズと同じ	Windows XP をお使いの場合 出荷時のブートパーティション

- ▶ 仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍
最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
- 4 「詳細設定」タブをクリックします。
- 5 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
- 6 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 7 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 8 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

9 本ワークステーションを再起動します。

LAN

□ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 - ・ ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・ 1000Mbps で通信している場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
 - ・ 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
- LAN に関して次の項目を確認してください。
 - ・ ハードウェアの競合が起こっていませんか？ (→ P.181)
 - ・ LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「ドライバ」 (→ P.127) をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。


```
ping nnn. nnn. nnn. nnn
```

(nnn には IP アドレスを入力します)
- ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・ 電源は入っていますか？
 - ・ ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・ Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、ワークステーション側の設定と合っていますか？

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

□ ネットワークアダプタ名が同じ名前が表示される

複数 LAN カードを使用している場合、デバイスマネージャで表示されるネットワークアダプタ名が同じ名前が表示され、ネットワークアダプタの判別が困難なため、設定環境の構築ができないことがあります。

この場合、次の手順によりネットワークアダプタを判別し、設定を行います。なお、設定内容については、ドライバに添付されている「Readme.txt」および「Install.txt」を参照してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」ウィンドウが表示されます。
- 3 「コントロールパネルを選んで実行します」から「ネットワーク接続」をクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
- 4 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
- 5 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「構成」をクリックします。
「LAN デバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。

□ 1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い

- LAN デバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは 1000BASE-T に対応していますか？
- 通信相手の機器は 1000BASE-T に対応にしていますか？

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていませんか？
『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

□ ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・ Windows を終了した直後
 - ・ スタンバイや休止状態にした直後
 - ・ ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - ・ 中断した状態から再度ワークステーションを操作させた場合
 - ・ ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックしてCドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。
- 修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください（→『取扱説明書』）。

デバイス

□ 機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？
次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。
情報漏洩や不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
- ・ USB
 - ・ IEEE1394a
 - ・ CD/DVD
 - ・ フロッピーディスク
 - ・ シリアル
 - ・ パラレル

CD / DVD

□ ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷ついたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

- ドライブはワークステーション本体にしっかり装着されていますか？
もう一度しっかり装着し直してください。

□ ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？
本ワークステーションの内蔵ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
なお、なんらかの原因でトレイが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、ディスク取り出し穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でつついてください。

□ DVD の再生が円滑に行われない

- DVD 再生ソフトを正しくインストールしましたか？
DVD 再生ソフトをインストールしてください。
- DMA 転送は有効ですか？
「機能」－「DMA の設定」（→ P.90）の操作をご覧になり、DMA 転送を有効にしてください。その後、すべてのソフトウェアを閉じ、ワークステーション本体を再起動してください。
- 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
いったんアンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、DVD 再生ソフトのインストールの手順に従って再インストールしてください。
- Wave 音源の再生または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？
Wave 音源または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

□ 外部ディスプレイに再生画面が表示されない

- ワークステーション本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？
マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

□ DVD の再生音が小さい

- ワークステーション本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。Windows の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の設定を調節してください。

□ DVD-RAM ディスクにデータが書き込めない

- DVD-RAM ディスクに書き込む場合は、次の設定を行ってください。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. 「DVD-RAM ドライブ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 3. 「書き込み」タブで「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックを外します。
 4. 「OK」をクリックします。

□ ディスクへの書き込み速度が遅い

- ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？
ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか？
ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ディスクはフォーマットしてありますか？
ディスクをフォーマットしてください。
- ディスクは、1.44MB の容量にフォーマットしてありますか？
Windows XP Professional で、その他のフォーマットのディスクを使う場合は、「3 モードフロッピーディスクドライバ」をインストールしてください。
インストール手順については、「ドライバズディスク」内の「¥other¥3mode¥xp¥readme.txt」をご覧ください。
- BIOS セットアップの項目を正しく設定していますか？
BIOS セットアップの設定については、「BIOS」-「メニュー詳細」(→ P.134)をご覧ください。
- ディスクが書き込み禁止になっていませんか？
ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか？
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか？
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください。詳しくは、「ハードウェア」-「ハードウェアのお手入れ」(→ P.45)をご覧ください。

□ フロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない

- Windows XP では、フロッピーディスクを 1.44MB 以外の容量にフォーマットできません。

SCSI カード

□ SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows から認識できない

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか？
次の手順に従って確認してください。
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
SCSI コントローラが登録されているか確認してください。
登録されていない場合、「ハードウェアの追加ウィザード」をクリックし、SCSI カードの検出とドライバのインストールを実行してください。
「ハードウェアの追加ウィザード」を表示させるには、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックし、「関連項目」の「ハードウェアの追加」をクリックしてください。
- SCSI 装置の電源は、ワークステーション本体の電源を入れる前に入れましたか？
ワークステーション本体の電源より先に SCSI 装置の電源が入っていないと、正しく認識されません。

- SCSI 装置の機器 ID は正しく設定されていますか？
複数の SCSI 装置に同じ機器 ID を設定すると、正しく認識されません。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」(→ P.185) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか？
明るさをブライトネスボリュームで調節してください。

□ 表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.127) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、Safe モードで起動してからインストールしてください (→ P.181)。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時
- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系ソフトウェアなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、又はリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください (→ P.178)。

□ 画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。

□ リカバリ後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバズディスク」をセットします。

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。
3. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「設定」タブの「詳細設定」をクリックします。
 5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
 6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
 7. 「いいえ、今回は接続しません (T)」を選択して、「次へ」をクリックします。
 8. 「一覧または特定の場所からインストールする (詳細)」をクリックし、「次へ」をクリックします。
 9. 「リムーバブルメディア (フロッピー、CD-ROM など) を検索」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
 10. 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 「.. インストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。」と表示されたら、「続行」をクリックしてください。
11. 「完了」をクリックします。
 12. すべてのウィンドウを閉じます。

□ その他

- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するソフトウェアによって異なります。

サウンド

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？

- ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
- ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- Windows の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起こっていませんか？（→ P.181）
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？必要に応じて、「ソフトウェア」→「ドライバ」（→ P.127）をご覧になり、再インストールしてください。

キーボード

□ キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？

□ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
キーボード上のインジケータで、【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」をクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

マウス

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？（光学式マウス以外の場合）
マウス内部をクリーニングしてください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（光学式マウスの場合）
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

□ マウスカーソルが正しく動作しない（光学式マウスの場合）

- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）

・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください (→ P.186)。

□ マウスの中ボタンが動作しない (3 ボタンマウスの場合)

- 3 ボタンマウスの中ボタンは、3 ボタン対応ソフトウェアを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。

USB

□ USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- USB デバイ스에 不具合はありませんか？
USB デバイ스에 不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
ワークステーションを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

□ USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスclamationマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありますか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- 外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありますか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルート ハブ」をダブルクリックします。
「USB ルート ハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。

IEEE1394a

□ IEEE1394a デバイスが使えない

- 長すぎるケーブルを使用していませんか？
長さ 4.7 メートル以内のケーブルをお使いください。
- IEEE1394a デバイスが表示されていますか？
IEEE1394a デバイス接続後、IEEE1394a デバイスがデバイスマネージャに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。
この場合、IEEE1394a デバイス側の電源の管理機能がコンピュータに誤って認識されている可能性があります。IEEE1394a デバイス側の電源設定を変更してください。
- IEEE1394a デバイスに不具合はありませんか？
IEEE1394a デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
ワークステーションを再起動して、IEEE1394a デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394a デバイスのご購入元にご連絡ください。

□ IEEE1394a デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクリメーションマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありますか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。

本体カバーキー

□ 本体カバーキーをなくしてしまった（カスタムメイドの「本体カバーキー追加」を選択している場合）

- 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。（→『取扱説明書』）
- 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？

- ・ ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか ? (→ P.192)

その他

使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

なお、記載の情報は、2006年10月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問合せください。

- Norton AntiVirus 2006

- ・株式会社シマンテック

- シマンテックテクニカルサポートセンター

- 本センターをご利用いただくためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートをご購入いただくか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

- URL : <http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu> (ユーザー登録ホームページ)

- 電話・FAX : テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

- 電話受付時間 : 10:00 ~ 18:00 (土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

- Adobe Reader 7.0

- ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- ソフトウェア (カスタムメイド)

- 各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

Memo

索引

記号

- 3.5 インチファイルベイ 18
- 5 インチファイルベイ 18

A

- ACPI 92
- Adobe Reader 116, 123
- Advanced メニュー 136

B

BIOS

- ーセットアップ 130
- ーセットアップの操作のしかた .. 131
- ーセットアップを終了する 133
- ーのパスワード 152
- Boot メニュー 148

C

- CD / DVD 30
- CD/DVD 取り出しボタン 14
- CD-ROM ドライブ 14
- CD アクセスランプ 14
- CPU 19
- CPU FAN コネクタ 20

D

- DIMM スロット 20
- DMA 90
- DVD-RAM 120
- DVD-RAM ドライバーソフト ... 116, 120
- DVI-I コネクタ 15, 171

E

- Easy Backup 116, 121
- Exit メニュー 151

F

- FireGL V5000 73, 80
- FM Advisor 116, 123, 183
- FM-Menu 116, 123
- FMV 診断 116, 122, 183

- FM 拡大ツール 116, 124
- FM キーガード 116, 124

I

- IEEE1394a コネクタ 175
- IEEE1394a 端子 16
- Info メニュー 150

L

- LAN 88
- ー機能 168
- ーコネクタ 16, 172

M

- Main メニュー 134
- Microsoft Windows XP Professional (SP2) 116, 117

N

- Norton AntiVirus 104, 116, 118

O

- OS 追加プログラム 116, 117

P

- PCI Express x1 スロット 16, 18
- PCI コネクタ 19
- PC 乗換ガイド 116, 124
- Portshutter 111, 116, 118
- Power MANagement for Windows 99, 116, 125
- Power メニュー 146

Q

- QT-PC/U 183
- Quadro FX 1500 74, 82
- Quadro FX 550 74, 82

R

- RADEON X300 SE 72, 78
- Roxio DigitalMedia 116, 121

S

Safe モード	181
Security メニュー	141
Serial ATA コネクタ	19
SMARTACCESS/Basic	116, 118
Supervisor Password	152
System FAN コネクタ	19

U

UpdateAdvisor (本体装置)	116, 122, 182
USB コネクタ	13, 16, 174
User Password	152

W

Windows Update	106
----------------	-----

あ行

アウトレット	16
アナログ RGB コネクタ	170
色数	72
インレット	16
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	44, 111
温度センサー (Rear)	19
温度センサー (System)	19

か行

解像度	72
鍵穴	13
拡張カード	63
拡張カードスロット	15, 18
仮想メモリ	191
管理者用パスワード	152
キーボード	27
- コネクタ	16, 174
- のお手入れ	47
休止状態	92
コネクタ仕様	170
コンピュータウイルス対策	104

さ行

周辺機器	52
仕様	166
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	168
省電力	92, 95

シリアルコネクタ	16, 173
スタンバイ	92
スマートカード	157
スマートカードベイ	13
スマートカードリーダー/ライター	110
セキュリティ施錠金具	15
セキュリティセンター	107
セキュリティチップ	110, 156
施錠	49

た行

通風孔	13
ディスクアクセスランプ	13
ディスク取り出し穴	14
電源	
- ボタン	13
- ユニット	18
- ランプ	13
盗難防止用ロック取り付け穴	15
ドライバーズディスク	127
「ドライバーズディスク検索」ツール	127

な行

内蔵バッテリー	19
---------	----

は行

ハードウェアの競合	181
ハードディスク	43
ハードディスクデータ消去	116, 119
ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能	44
パスワード (BIOS)	
- 削除する	155
- 設定する	154
- 変更する	155
- 忘れると	152
パラレル ATA コネクタ	19
パラレルコネクタ	16, 173
表示機能	169
ファイアウォール	108
フット	14
フロッピーコネクタ	20
フロッピーディスク	40
- アクセスランプ	13
- ドライブ	13
- ドライブのお手入れ	48
- 取り出しボタン	13

ページングファイル	191
ヘッドホンアウト端子	13
本体カバー	54
本体仕様	166

ま行

マイク端子	13
マウス	24
—コネクタ	16, 174
—のお手入れ	46
マルチディスプレイ機能	76, 78
メインスイッチ	16
メインボード	19
メッセージ (BIOS イベントログ) ...	161
メモリ	56

や行

ユーザー用パスワード	152
------------------	-----

ら行

ラインアウト端子	17
ラインイン端子	17

わ行

ワークステーション本体のお手入れ ...	45
----------------------	----

Memo

CELSIUS J340

製品ガイド
B5FJ-0271-02-00

発行日 2006年10月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。